

文学研究科

日本文学専攻

科目名	日本文学特論 I a	前期	2 単位
サブタイトル	和歌と国史・古記録		
担当者	北山 円正		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標]			
1、六国史や古記録を訓読し、解釈する力を身に付ける。			
2、和歌を読解する力を身に付ける。			
3、和歌はどのような時に詠まれているかを考える。			
4、儀式儀礼の場で和歌がどのような機能を果たしているかを考える。			
[授業概要]			
六国史・類聚国史や平安朝の古記録に見える和歌に関する記事を取り上げ、訓読し、解釈する。その際、中国・日本の典籍から用例を集めて、読解の手助けとする。			
また、和歌についても、解釈を行う。ここでも歌語や表現の例を集めることによって、確かな読解を目指す。			
その上で、その時その場で、なぜこのような和歌が詠じられ、その和歌に応じて詠んだのかを検討し、貴族社会において和歌がどのような機能・役割を果たしていたのかを考える。			
授業は、受講生の資料作成、史料訓読によって進める。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]			
授業で取り上げる史料ををあらかじめ読み、どういう人たちが、いつどういう場で、何をしたかを考えておくこと。また、文中にある主要な語彙の意味・用法・用例を、辞書等によって調べておくこと。			
[授業計画]			
1. 六国史・類聚国史や古記録の概説			
2. 六国史・類聚国史や古記録の訓読について			
3. 出典調査の概要・方法			
4. 日本後紀 I			
5. 日本後紀 II			
6. 続日本後紀 I			
7. 続日本後紀 II			
8. 類聚国史 I			
9. 類聚国史 II			
10. 類聚国史 III			
11. 類聚国史 IV			
12. 御堂関白記 I			
13. 御堂関白記 II			
14. 御堂関白記 III			
15. 御堂関白記 IV			
[成績評価方法]			
資料の読解力、ふさわしい用例を見つけたか、問題意識を持って発言をしたか、レポートの内容を評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
適宜資料を配付する。あえて言えば、発表者の作成した資料が教科書となる。 著者名:1冊の教科書を読み進める方法をとらぬので、著者名を伝えることは適当ではない。 出版社:教科書を用いぬので、出版社を伝えることはできぬ。			
[参考書(ISBN)]			
参照すべき書籍は、枚挙に遑なし。必要に応じて、論文・研究書を紹介する。			

科目名	日本文学特論 I b	後期	2 単位
サブタイトル	国史・古記録と和歌		
担当者	北山 円正		

〔実務経験のある教員による授業〕

〔到達目標〕

- 1、歌書や古記録を訓読し、解釈する力を身に付ける。
- 2、和歌を読解する力を身に付ける。
- 3、和歌はどのような時に詠まれているかを考える。
- 4、儀式儀礼の場で和歌がどのような機能を果たしているかを考える。

〔授業概要〕

奈良・平安時代の史書・記録類を読みながら、和歌がどのように記されているかを考える。そして歌書や平安朝に書かれた古記録類の和歌に関する記事を取り上げ、訓読し、解釈する。その際、漢和辞典のみならず、中国・日本の典籍から用例を集めて、読解の手助けとする。

また、和歌についても、解釈を行う。ここでも歌語や表現の例を集めることによって、読み解いて行く。その上で、その時その場で、なぜそのような和歌が詠じられたのかを検討し、和歌がどのような機能・役割を果たしていたのかを考える。

授業は、受講生の資料作成、史料訓読によって進める。

〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕

授業で取り上げる史料ををあらかじめ読み、どういう人たちが、いつどういう場で、何をしたかを考えておくこと。また、文中にある主要な語彙の意味・用法・用例を、辞書等によって調べておくこと。

〔授業計画〕

1. 古今集の真名序
2. 古今集の仮名序
3. 万葉集における詠作の場Ⅰ
4. 万葉集における詠作の場Ⅱ
5. 万葉集における詠作の場Ⅲ
6. 権記Ⅰ
7. 権記Ⅱ
8. 権記Ⅲ
9. 権記Ⅳ
10. 小右記Ⅰ
11. 小右記Ⅱ
12. 小右記Ⅲ
13. 小右記Ⅳ
14. 左経記Ⅰ
15. 左経記Ⅱ

〔成績評価方法〕

資料の読解力、発表内容、レポートを評価する。

〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

〔教科書(ISBN)〕

なし

〔参考書(ISBN)〕

なし

科目名	日本文学特論Ⅱa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	樹下 文隆		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 謡本の表紙絵を契機として、日本文化における能楽の影響を理解する。			
[授業概要] 能楽(能・狂言)が日本文化に与えた影響について、近世の文学や絵画に表象される事例を中心に考察する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 取り上げる謡曲の内容について熟知しておくこと。			
[授業計画] 【すべて対面授業】 1. 導入。能楽に関わる絵画資料の範疇について 2. 謡本の表紙絵について① 3. 謡本の表紙絵について② 4. 謡本の表紙絵について③ 5. 謡本の表紙絵について④ 6. 謡本の表紙絵について⑤ 7. 謡本の表紙絵について⑥ 8. 謡本の表紙絵について⑦ 9. 謡本の表紙絵について⑧ 10. 謡本の表紙絵について⑨ 11. 謡本の表紙絵について⑩ 12. 謡本の表紙絵について⑪ 13. 謡本の表紙絵について⑫ 14. 謡本の表紙絵について⑬ 15. 謡本の表紙絵について⑭			
[成績評価方法] 発表、またはレポートにより評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし。適宜指示する。			
[参考書(ISBN)] 講義時に、適宜指示する。			

科目名	日本文学特論Ⅱb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	樹下 文隆		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 作品を古典知の受容という観点から考察し、新知見を見出す。			
[授業概要] 文学史の諸問題について研究の現状を認識するとともに、受講生は古典または近現代成立の作品を選び、その背景にある古典知を探索・分析し、その結果を発表する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日本文学史の概要を把握しておくこと。取り上げるべき作品を選び、その背景にある古典知を探索・分析すること。			
[授業計画] 【全て対面授業】 1. 作品における時代相の読み方について 2. 原典と二次創作における時代相の扱い方について 3. 作品の読解① 4. 作品の読解② 5. 作品の読解③ 6. 作品の読解④ 7. 作品の読解⑤ 8. 作品の読解⑥ 9. 作品の読解⑦ 10. 作品の読解⑧ 11. 作品の読解⑨ 12. 作品の読解⑩ 13. 作品の読解⑪ 14. 作品の読解⑫ 15. 作品の読解⑬			
[成績評価方法] 発表、またはレポートにより評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし。適宜指示する。			
[参考書(ISBN)] 講義時に、適宜指示する。			

科目名	日本文学特論Ⅲa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	井上 勝志		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 浄瑠璃作品の読み方を深め、浄瑠璃作品における趣向について把握できるようにする。			
[授業概要] まず浄瑠璃作品を読み、浄瑠璃注釈書『難波土産』の注・評を見ていく。その注釈の意図を探り、浄瑠璃作品を読むとはどういうことなのか、また、浄瑠璃読解における注釈のあり方について考える。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各作品を読み、その内容を共通理解として共有しておくこと。			
[授業計画] 1.『難波土産』とは何か 2.『御所桜堀川夜討』1 3.『御所桜堀川夜討』2 4.『御所桜堀川夜討』3 5.『お初天神記』1 6.『お初天神記』2 7.『北條時頼記』1 8.『北條時頼記』2 9.『北條時頼記』3 10.『安倍宗任松浦きぬがさ』1 11.『安倍宗任松浦きぬがさ』2 12.『安倍宗任松浦きぬがさ』3 13.『大内裏大友真鳥』1 14.『大内裏大友真鳥』2 15.『大内裏大友真鳥』3			
[成績評価方法] レポート			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)			
[参考書(ISBN)] なし。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)			

科目名	日本文学特論Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	井上 勝志		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 浄瑠璃作品の読み方を深め、浄瑠璃作品における趣向について把握できるようにする。			
[授業概要] まず浄瑠璃作品を読み、浄瑠璃注釈書『難波土産』の注・評を見ていく。その注釈の意図を探り、浄瑠璃作品を読むとはどういうことなのか、また、浄瑠璃読解における注釈のあり方について考える。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各作品を読み、その内容を共通理解として共有しておくこと。			
[授業計画] 1.『国性爺合戦』1 2.『国性爺合戦』2 3.『国性爺合戦』3 4.『苅萱桑門筑紫いえずと』1 5.『苅萱桑門筑紫いえずと』2 6.『苅萱桑門筑紫いえずと』3 7.『苅萱桑門筑紫いえずと』4 8.『蘆屋道満大内鑑』1 9.『蘆屋道満大内鑑』2 10.『蘆屋道満大内鑑』3 11.『蘆屋道満大内鑑』4 12.『大塔宮囃鏡』1 13.『大塔宮囃鏡』2 14.『大塔宮囃鏡』3 15.『大塔宮囃鏡』4			
[成績評価方法] レポート			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)			
[参考書(ISBN)] なし。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)			

科目名	日本文学特論Ⅴa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	永渕 朋枝		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 近代日本文学を作家や作品だけではなく、それを評価する枠組自体を問う視点を身につける。作家の全集を通覧し、その問題点を考察することによって、自分で論点を見つけ、明確な論拠を示して論を展開できるようになることを目標とする。			
[授業概要] 「全集」は一般的には、ある人の著作のすべてを集めた書物のことである。けれども、全集に収めるべき作品の範囲について見解がまとまっているわけではなく、欠落もあり、談話などの扱いは作家毎に異なる。島崎藤村の全集を中心に、さまざまな作家の全集の違いや問題点を見ることから、日本近代において作家が時代やメディアによってどのように作られてきたのかを考える。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 扱う作家全集について、凡例、談話の扱い方、全集逸文についての論文などの調査を行う。			
[授業計画] 1. 導入 2. 『藤村全集』第一感想集の問題点 3. 『藤村全集』第二感想集の問題点 4. 『藤村全集』第三感想集の問題点 5. 『藤村全集』第四感想集の問題点 6. 『藤村全集』第五感想集の問題点 7. 『藤村全集』第六感想集の問題点 8. 『藤村全集』童話集の問題点(1) 9. 『藤村全集』童話集の問題点(2) 10. 『野上彌生子全集』の問題点(1) 11. 『野上彌生子全集』の問題点(2) 12. 『野上彌生子全集』の問題点(3) 13. 近代文学の全集について(1) 14. 近代文学の全集について(2) 15. 近代文学の全集について(3)			
[成績評価方法] 発表・質疑応答等(30%)、レポート(70%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	日本文学特論 Vb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	永渕 朋枝		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 日本近現代文学の調査のしかた、分析のしかたを身につける。当時の社会状況を知り、時代状況をふまえて作品を読む姿勢を身につける。			
[授業概要] 日本近現代文学の作品と、それについての論文を読んで、論を立てる。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 作品や論文を読んでくる。			
[授業計画] 1. 導入 2. 野上彌生子(1) 3. 野上彌生子(2) 4. 野上彌生子(3) 5. 夏目漱石(1) 6. 夏目漱石(2) 7. 夏目漱石(3) 8. 島崎藤村(1) 9. 島崎藤村(2) 10. 島崎藤村(3) 11. 田村俊子(1) 12. 田村俊子(2) 13. 田村俊子(3) 14. 作品論を書く 15. 作品論を批判的に読む			
[成績評価方法] 発表・質疑応答(30%)・レポート(70%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	日本語学演習 I a	前期	2 単位
サブタイトル	初級日本語の教え方		
担当者	安原 順子		
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 初級日本語教授法に精通することを目標とする。 [授業概要] 何冊かの初級日本語教育用教科書を使用し、教案を書き、実際に日本語を教えてみる。初級の教え方に精通することを目指す。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習・復習4時間程度。 事前に課した課題をこなし、授業に望むこと。 [授業計画] 1. 初級日本語の教え方① 2. 初級日本語の教え方② 3. 初級日本語の教え方③ 4. 初級日本語の教え方④ 5. 初級日本語の教え方⑤ 6. 初級日本語の教え方⑥ 7. 初級日本語の教え方⑦ 8. 初級日本語の教え方⑧ 9. 初級日本語の教え方⑨ 10. 初級日本語の教え方⑩ 11. 初級日本語の教え方⑪ 12. 初級日本語の教え方⑫ 13. 初級日本語の教え方⑬ 14. 初級日本語の教え方⑭ 15. 初級日本語の教え方⑮ [成績評価方法] 課題(50%)、発表(50%) [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] 授業中に指示する。 [参考書(ISBN)] 授業中に指示する。			

科目名	日本語学演習 I b	後期	2 単位
サブタイトル	初中級・中上級日本語の教え方		
担当者	安原 順子		
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 初中級・中上級日本語の教授法に精通することを目標とする。 [授業概要] 何冊かの初中級・中上級日本語教育用教科書を使用し、教案を書き、実際に日本語を教えてみる。初中級・中上級の教え方に精通することを目指す。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習・復習4時間程度。 事前に課した課題をこなし、授業に望むこと。 [授業計画] 1. 初中級日本語の教え方① 2. 初中級日本語の教え方② 3. 初中級日本語の教え方③ 4. 中級日本語の教え方① 5. 中級日本語の教え方② 6. 中級日本語の教え方③ 7. 中級日本語の教え方④ 8. 中級日本語の教え方⑤ 9. 中級日本語の教え方⑥ 10. 中級日本語の教え方⑦ 11. 上級日本語の教え方① 12. 上級日本語の教え方② 13. 上級日本語の教え方③ 14. 上級日本語の教え方④ 15. 上級日本語の教え方⑤ [成績評価方法] 課題(50%)、発表(50%) [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] 授業中に指示する。 [参考書(ISBN)] なし			

科目名	日本語学演習Ⅱa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	橋本 礼子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 日本語を対象としたコミュニケーション論・社会言語学的研究を実践する。			
[授業概要] この演習では、日本語を対象としたコミュニケーションの研究あるいは社会言語学的研究を履修者が実践し、討論する。興味を持っている事象に関するデータを集め、様々な分析手法で考察し、時には関連のある理論を援用するなどして、新しい事実を発掘することをめざす。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 興味を持っている事象について、関連する論文や図書を熟読し、データを集め、自分が発表する準備をすすめておく(各回、4時間程度)。			
[授業計画] 1.コミュニケーション論・社会言語学についての導入 2.コミュニケーションに関する理論1 3.コミュニケーションに関する理論2 4.社会言語学の理論1 5.社会言語学の理論2 6.発表と討論1 7.発表と討論2 8.発表と討論3 9.発表と討論4 10.発表と討論5 11.発表と討論6 12.発表と討論7 13.発表と討論8 14.発表と討論9 15.まとめ			
[成績評価方法] 討論(50%)、レポート(論文形式)(50%) 授業中の討論の中でフィードバックする。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] 随時指示する			

科目名	日本語学演習Ⅱb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	橋本 礼子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 日本語を対象としたコミュニケーション論や社会言語学的研究を実践する。			
[授業概要] この演習では、日本語を対象としたコミュニケーションの研究あるいは社会言語学的研究を履修者が実践し、討論する。興味を持っている事象に関するデータを集め、様々な分析手法で考察し、時には関連のある理論を援用するなどして、新しい事実を発掘することをめざす。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 興味を持っている事象について、関連する論文や図書を熟読し、データを集め、自分が発表する準備をすすめておく(各回、4時間程度)。			
[授業計画] 1.コミュニケーション論・社会言語学についての発展的導入 2.コミュニケーションに関する理論1 3.コミュニケーションに関する理論2 4.社会言語学の理論1 5.社会言語学の理論2 6.発表と討論1 7.発表と討論2 8.発表と討論3 9.発表と討論4 10.発表と討論5 11.発表と討論6 12.発表と討論7 13.発表と討論8 14.発表と討論9 15.まとめ			
[成績評価方法] 討論(50%)、レポート(論文形式)(50%) 授業中の討論の中でフィードバックする。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] 随時指示する			

科目名	日本語学特論 I a	前期	2 単位
サブタイトル	初級日本語教育用教科書の比較		
担当者	安原 順子		
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 初級日本語教育用教科書の扱いに精通することを目標とする。 [授業概要] 何冊かの初級日本語教育用教科書を比較・検討し、日本語教授に際し、初級教科書を十分使いこなせるようになることを目指す。必要に応じ、日本語の文法解説書を読みながら、授業を進める。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習・復習4時間程度。 事前に課した課題をこなし、授業に望むこと。 [授業計画] 1. 授業の準備と進め方 2. 『みんなの日本語初級 I 』① 3. 『みんなの日本語初級 I 』② 4. 『みんなの日本語初級 I 』③ 5. 『みんなの日本語初級 I 』④ 6. 『みんなの日本語初級 II 』① 7. 『みんなの日本語初級 II 』② 8. 『みんなの日本語初級 II 』③ 9. 『みんなの日本語初級 II 』④ 10. 『みんなの日本語初級 II 』⑤ 11. 『初級日本語げんき I 』① 12. 『初級日本語げんき I 』② 13. 『初級日本語げんき I 』③ 14. 『初級日本語げんき I 』④ 15. 『初級日本語げんき I 』⑤ [成績評価方法] 課題(50%)、発表(50%) [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] 授業中に指示する。 著者名:なし 出版社:なし [参考書(ISBN)] なし			

科目名	日本語学特論 I b	後期	2 単位
サブタイトル	初級日本語教育用教科書の比較		
担当者	安原 順子		
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 初級日本語教育用教科書の扱いに精通することを目標とする。 [授業概要] 何冊かの初級日本語教育用教科書を比較・検討し、日本語教授に際し、初級教科書を十分使いこなせるようになることを目指す。必要に応じ、日本語の文法解説書を読みながら、授業を進める。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各回の授業についての予習・復習4時間程度。 事前に課した課題をこなし、授業に望むこと。 [授業計画] 1. 『初級日本語げんきⅡ』① 2. 『初級日本語げんきⅡ』② 3. 『初級日本語げんきⅡ』③ 4. 『初級日本語げんきⅡ』④ 5. 『初級日本語げんきⅡ』⑤ 6. 『できる日本語初級』① 7. 『できる日本語初級』② 8. 『できる日本語初級』③ 9. 『できる日本語初級』④ 10. 『できる日本語初級』⑤ 11. 『できる日本語初級初中級』① 12. 『できる日本語初級初中級』② 13. 『できる日本語初級初中級』③ 14. 『できる日本語初級初中級』④ 15. 『できる日本語初級初中級』⑤ [成績評価方法] 課題(50%)、発表(50%) [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] 授業中に指示する。 [参考書(ISBN)] 授業中に指示する。			

科目名	日本語学特論Ⅱa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	橋本 礼子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 文法についての知識を深め、文法理論を理解し、豊富な用例をもとに文法を考える視点を養う。			
[授業概要] この授業では日本語の諸方言について文法の諸相を論じる。さまざまなデータ(用例)をもとに、言語学の文法理論を援用しながら、隠れたルールを考察する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日本語(現代全国共通語および古典語)の文法と文法カテゴリーの概念をひとつと理解しておくことが前提である。 各回、予習・復習に4時間程度。			
[授業計画] 1.導入 方言文法の世界 2.記述文法と規範文法 3.文法記述の方法1 形態論 4.文法記述の方法2 統語論 5.文法記述の方法3 運用の問題 6.日本語諸方言の文法 格(1) 7.日本語諸方言の文法 格(2) 8.日本語諸方言の文法 格(3) 9.日本語諸方言の文法 とりたて(1) 10.日本語諸方言の文法 とりたて(2) 11.日本語諸方言の文法 主題(1) 12.日本語諸方言の文法 主題(2) 13.日本語諸方言の文法 ヴォイス(1) 14.日本語諸方言の文法 ヴォイス(2) 15.日本語諸方言の文法 ヴォイス(3)			
[成績評価方法] 授業中課題(50%)、レポート(50%) 授業中課題は授業中にフィードバックする。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] 随時指示する			

科目名	日本語学特論Ⅱb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	橋本 礼子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 文法についての知識を深め、文法理論を理解し、豊富な用例をもとに文法を考える視点を養う。			
[授業概要] この授業では日本語の諸方言について文法の諸相を論じる。さまざまなデータ(用例)をもとに、言語学の文法理論を援用しながら、隠れたルールを考察する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日本語(現代全国共通語および古典語)の文法と文法カテゴリーの概念をひとつと理解しておくことが前提である。 各回、予習・復習に4時間程度。			
[授業計画] 1.導入 方言文法の世界 2.方言記述文法について 3.日本語方言の文法 肯定(1) 4.日本語諸方言の文法 肯定(2) 5.日本語諸方言の文法 授受(1) 6.日本語諸方言の文法 授受(2) 7.日本語諸方言の文法 アスペクト(1) 8.日本語諸方言の文法 アスペクト(2) 9.日本語諸方言の文法 テンス(1) 10.日本語諸方言の文法 テンス(2) 11.日本語諸方言の文法 モダリティ(1) 12.日本語諸方言の文法 モダリティ(2) 13.日本語諸方言の文法 複文(1) 14.日本語諸方言の文法 複文(2) 15.まとめ			
[成績評価方法] 授業中課題(50%)、レポート(50%) 授業中課題は授業中にフィードバックする。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] 随時指示する			

科目名	日本文学演習 I a	前期	2 単位
サブタイトル	源氏物語と古注釈		
担当者	北山 円正		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 源氏物語における表現・語彙の出典を調査することによって、作品の述作過程を探る。さらに、作品の創作意図・人物造型の方法を考える。また、問題点の見つけ方、調査検討の方法、先行研究の扱い方を習得する。			
[授業概要] 源氏物語を、その主要な注釈書である『河海抄』とともに読む。注の付けられた表現や語彙の出典を探しだし、その過程で浮かび上がる問題について考える。和歌・漢詩文・史書・物語等々何であれ、『河海抄』が引く文献を読み解釈し、なぜその文献を利用したのかを検討する。受講生は担当範囲について、調査の上資料を作成し、検討結果を発表することとする。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業で取り上げる箇所を読んで、何が問題となるのか、なぜ問題となるのか、それを解決するには何をすれば良いのかを考え、調査を行うこと。			
[授業計画] 1. 『河海抄』について 2. 源氏物語・須磨巻の説明 3. 調査・検索の方法の説明 4. 調査結果の発表・討論(須磨巻・光源氏と紫の上の別れの場面・1回目) 5. 調査結果の発表・討論(須磨巻・光源氏と紫の上の別れの場面・2回目) 6. 調査結果の発表・討論(須磨巻・光源氏と紫の上の別れの場面・3回目) 7. 調査結果の発表・討論(須磨巻・光源氏と花散里の別れの場面・1回目) 8. 調査結果の発表・討論(須磨巻・光源氏と花散里の別れの場面・2回目) 9. 調査結果の発表・討論(須磨巻・光源氏と花散里の別れの場面・3回目) 10. 調査結果の発表・討論(須磨巻・光源氏の旅立ちの準備・1回目) 11. 調査結果の発表・討論(須磨巻・光源氏の旅立ちの準備・2回目) 12. 調査結果の発表・討論(須磨巻・光源氏と藤壺の別れの場面・1回目) 13. 調査結果の発表・討論(須磨巻・光源氏と藤壺の別れの場面・2回目) 14. 須磨巻冒頭における出典の概要について検討 15. 須磨巻冒頭における出典と創作意図について			
[成績評価方法] 発表内容、資料読解力、レポートを評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] 特に指定しない。必要に応じて文献を挙げる。			

科目名	日本文学演習 I b	後期	2 単位
サブタイトル	源氏物語と古注釈		
担当者	北山 円正		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 源氏物語に見える表現・語彙の出典を調査することによって、作品の述作過程を探る。さらに、作品の創作意図・人物造型の方法を考える。また、問題点の見つけ方、調査検討の方法、先行研究の扱い方を身につける。			
[授業概要] 源氏物語・須磨巻を、その主要な注釈書である『河海抄』とともに読む。注の付けられた表現や語彙の出典を調査し、そこから浮かび上がる問題について考える。和歌・漢詩文・史書・物語等々何であれ、『河海抄』が引く文献を検出し、読み解釈し、なぜその文献を利用したのかを検討する。受講生は担当範囲について、調査の上資料を作成し、検討結果を発表することとする。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業で取り上げる箇所を読んで、何が問題となるのか、なぜ問題となるのか、それを解決するには何をすれば良いのかを考え、調査を行うこと。			
[授業計画] 1. 調査結果の発表・討論(須磨巻・退居秋の場面・1回目) 2. 調査結果の発表・討論(須磨巻・退居秋の場面・2回目) 3. 調査結果の発表・討論(須磨巻・退居秋の場面・3回目) 4. 調査結果の発表・討論(須磨巻・退居秋の場面・4回目) 5. 調査結果の発表・討論(須磨巻・退居秋の場面・5回目) 6. 調査結果の発表・討論(須磨巻・退居冬の場面・1回目) 7. 調査結果の発表・討論(須磨巻・退居冬の場面・2回目) 8. 調査結果の発表・討論(須磨巻・退居冬の場面・3回目) 9. 調査結果の発表・討論(須磨巻・明石の入道登場の場面・1回目) 10. 調査結果の発表・討論(須磨巻・明石の入道登場の場面・2回目) 11. 調査結果の発表・討論(須磨巻・明石の入道登場の場面・3回目) 12. 調査結果の発表・討論(須磨巻・退居春の場面・1回目) 13. 調査結果の発表・討論(須磨巻・退居春の場面・2回目) 14. 調査結果の発表・討論(須磨巻・退居春の場面・3回目) 15. 須磨巻冒頭における出典と創作意図について			
[成績評価方法] 発表内容、資料読解力、レポートを評価する			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	日本文学演習Ⅱa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	樹下 文隆		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 研究課題を見つけ出し、その解明のために必要な手立てを案出する。			
[授業概要] 担当者は、模擬演習を参考に、作品の内容を吟味しつつ、研究課題を見つけて、その解明に取り組む。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 作品を一つ選び、作品の背景や研究史を確認した上で、新たな研究課題を考える。			
[授業計画] 【すべて対面授業】 1. 模擬演習① 2. 模擬演習② 3. 模擬演習③ 4. 模擬演習④ 5. 模擬演習⑤ 6. 演習① 7. 演習② 8. 演習③ 9. 演習④ 10. 演習⑤ 11. 演習⑥ 12. 演習⑦ 13. 演習⑧ 14. 演習⑨ 15. 演習⑩			
[成績評価方法] 発表(40%)とレポート(60%)により評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし。適宜指示する。			
[参考書(ISBN)] 講義時に、適宜指示する。			

科目名	日本文学演習Ⅱb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	樹下 文隆		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 研究課題を見つけ出し、その解明のために必要な手立てを案出する。			
[授業概要] 担当者は、模擬演習を参考に、作品の内容を吟味しつつ、研究課題を見つけて、その解明に取り組む。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 作品を一つ選び、作品の背景や研究史を確認した上で、新たな研究課題を考える。			
[授業計画] 【全て対面授業】 1. 作品と原典の関係について 2. 作品に影響を与えた同時代作品について 3. 作品の背景としての社会状況について 4. 同時代作品における社会状況の扱われ方について 5. 資料探索の方法について 6. 資料探索指導① 7. 資料探索指導② 8. 資料探索指導③ 9. 文章作成指導① 10. 文章作成指導② 11. 文章作成指導③ 12. 演習発表指導① 13. 演習発表指導② 14. 演習発表指導③ 15. 演習発表指導④			
[成績評価方法] 発表(40%)とレポート(60%)により評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし。適宜指示する。			
[参考書(ISBN)] 講義時に、適宜指示する。			

科目名	日本文学演習Ⅲa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	井上 勝志		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 京坂興行界における井上播磨掾の位置づけを行なう。			
[授業概要] 井上播磨掾の正本・段物集の講読を通して、彼の作品の特徴・影響を探り、竹本義太夫・近松門左衛門に至る上方浄瑠璃史について考察する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各作品を読み、その内容を共通理解として共有しておくこと。			
[授業計画] 1.古浄瑠璃略史 2.『浄土さんたん記井おはら問答』1 3.『浄土さんたん記井おはら問答』2 4.『浄土さんたん記井おはら問答』3 5.『三浦北條軍法くらべ井仁義之武道』1 6.『三浦北條軍法くらべ井仁義之武道』2 7.『三浦北條軍法くらべ井仁義之武道』3 8.『ちんぜいノ八郎ためとも』1 9.『ちんぜいノ八郎ためとも』2 10.『ちんぜいノ八郎ためとも』3 11.『大日本神道秘蜜の巻付御月日待ゆらい』1 12.『大日本神道秘蜜の巻付御月日待ゆらい』2 13.『大日本神道秘蜜の巻付御月日待ゆらい』3 14.『大日本神道秘蜜の巻付御月日待ゆらい』4 15.まとめ			
[成績評価方法] レポート			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)			
[参考書(ISBN)] なし。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)			

科目名	日本文学演習Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	井上 勝志		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 京坂興行界における井上播磨掾の位置づけを行なう。			
[授業概要] 井上播磨掾の正本・段物集の講読を通して、彼の作品の特徴・影響を探り、竹本義太夫・近松門左衛門に至る上方浄瑠璃史について考察する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各作品を読み、その内容を共通理解として共有しておくこと。			
[授業計画] 1.段物集概観 2.『忍四季揃』1 3.『忍四季揃』2 4.『忍四季揃』3 5.『忍四季揃』4 6.『忍四季揃』5 7.『忍四季揃』6 8.『忍四季揃』7 9.『古播磨風筑後丸』1 10.『古播磨風筑後丸』2 11.『古播磨風筑後丸』3 12.『古播磨風筑後丸』4 13.『古播磨風筑後丸』5 14.『古播磨風筑後丸』6 15.まとめ			
[成績評価方法] レポート			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)			
[参考書(ISBN)] なし。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)			

科目名	日本文学演習Ⅴa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	永渕 朋枝		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 日本近現代文学の作品の読み方、分析のしかた、調べ方、論の展開のしかたを習得する			
[授業概要] 大江健三郎の作品を、時代背景、言葉や表現の特徴などに留意して読み、論じる。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 作品や論文を毎週読んで、それについて書いてくる。			
[授業計画] 1. 導入 2. 文献検索のしかた 3. 大江健三郎の作品を読む(1) 4. 大江健三郎の作品を読む(2) 5. 大江健三郎の作品を読む(3) 6. 大江健三郎の作品を読む(4) 7. 大江健三郎の作品を読む(5) 8. 大江健三郎の作品を読む(6) 9. 大江健三郎の作品を読む(7) 10. 大江健三郎の作品を読む(8) 11. 大江健三郎の作品を読む(9) 12. 大江健三郎の作品を読む(10) 13. 大江健三郎の作品について論じる(11) 14. 大江健三郎の作品について論じる(12) 15. 大江健三郎の作品について論じる(13)			
[成績評価方法] 発表・質疑応答(50%)・レポート(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	日本文学演習 Vb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	永渕 朋枝		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 日本近現代文学の調査のしかた、分析のしかたを身につける。当時の社会状況を知り、時代状況をふまえて作品を読み、論文を批判的に読み、論じる力を身につける。			
[授業概要] 大江健三郎の作品についての論文を、批判的に読み、それを踏まえて自分の論を立てる。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 作品や論文を毎週読み、課題について書いてくる。			
[授業計画] 1. 文献検索のしかた 2. 大江健三郎の作品について論文を検索する 3. 大江健三郎の作品についての論文を読む(1) 4. 大江健三郎の作品についての論文を読む(2) 5. 大江健三郎の作品についての論文を読む(3) 6. 大江健三郎の作品についての論文を読む(4) 7. 大江健三郎の作品について分析する(1) 8. 大江健三郎の作品について分析する(2) 9. 大江健三郎の作品について分析する(3) 10. 大江健三郎の時代と思想(1) 11. 大江健三郎の時代と思想(2) 12. 大江健三郎の時代と思想(3) 13. 大江健三郎の作品について論文を書く(1) 14. 大江健三郎の作品について論文を書く(2) 15. 論を発表する			
[成績評価方法] 発表・質疑応答(50%)・レポート(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] 随時指示する。			

科目名	論文指導演習a(日本文学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	北山 円正		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 学位論文の作成。			
[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査について指導を行う。受講生は、論文の中で取り上げる本文について発表資料を作成し、何を取り上げ何を主張しようとするかを発表を述べる。その発表にもとづいて議論する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。			
[授業計画] 学位論文の進捗状況を報告させ、それに対応した指導を行う。			
[成績評価方法] 自分の論文についての明確な見通し、発表用資料の内容、口頭発表の内容、資料および発表内容を踏まえた議論等々を、総合的に評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし (なし)			
[参考書(ISBN)] 論文の主題に応じた文献を示す。特に指定しない。 著者名:なし (なし)			

科目名	論文指導演習a(日本文学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	永渕 朋枝		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成。 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ行う。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習a(日本文学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	安原 順子		
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 学位論文の作成。 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ行う。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習a(日本文学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	井上 勝志		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成。 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ行う。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし。 著者名 :なし。 出版社 :なし。(なし。) [参考書(ISBN)] なし。 著者名 :なし。 出版社 :なし。(なし。)			

科目名	論文指導演習a(日本文学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	橋本 礼子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 学位論文の作成。			
[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。			
[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ行う。			
[成績評価方法] 総合評価による。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] 随時指示する			

科目名	論文指導演習a(日本文学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	樹下 文隆		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成。 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 【すべて対面授業】 学位論文の作成進度に合わせ行う。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] 適宜、指示する。			

科目名	論文指導演習b(日本文学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	北山 円正		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成。 [授業概要] 学位論文を作成するために、調査・演習をしつつ研究指導を行う。受講生は、論文の中で取り上げる本文について発表資料を作成し、発表を行う。そして、その発表にもとづいて議論する。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 学位論文の作成状況を発表させ、その都度本文の解釈・考え方・論文の構成・参考文献等について助言指導を行う。 [成績評価方法] 取り扱う資料を着実に解釈しているか、研究としての独創性をどれ位有しているか、従前の研究成果を的確に踏まえているか等を、総合評価する。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習b(日本文学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	永渕 朋枝		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成。 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ行う。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習b(日本文学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	樹下 文隆		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成。 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 【全て対面授業】 学位論文の作成進度に合わせ行う。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] 適宜、指示する。			

科目名	論文指導演習b(日本文学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	安原 順子		
[実務経験のある教員による授業] ○ [到達目標] 学位論文の作成。 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ行う。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] 授業中に指示する。 [参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習b(日本文学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	橋本 礼子		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成。 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ行う。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] 随時指示する			

科目名	論文指導演習b(日本文学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	井上 勝志		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成。 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を調べておくこと。 [授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ行う。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし。 著者名 :なし。 出版社 :なし。(なし。) [参考書(ISBN)] なし。 著者名 :なし。 出版社 :なし。(なし。)			

英文学専攻

科目名	英語学演習a	前期	2 単位
サブタイトル	語用論（1）		
担当者	南 佑亮		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標]			
・語用論 (pragmatics) の古典的文献であるLevinson (1983) の精読を通して、語用論研究の根幹を成す諸問題を理解する。			
・語用論における研究課題を見つけて議論し、分析を進める力を身につける。			
[授業概要]			
テキストを精読した上で、問題点を議論していく。受講生は指定の箇所を精読し、疑問点等を明確にした上で授業に臨むことが求められる。授業中に各自がテキストの内容に即した研究テーマを選んで文献調査を実施し、その成果をレポートにまとめる。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]			
・授業前: 次回に扱う予定の範囲を精読しながら、必要に応じて関連文献にも当たる。			
・授業後: 再度同じ箇所を精読し、その内容と問題点の理解を深める。			
[授業計画]			
1. 背景:意味論vs.語用論			
2. The scope of pragmatics (1)			
3. The scope of pragmatics (2)			
4. The scope of pragmatics (3)			
5. Dexis (1)			
6. Dexis (2)			
7. Dexis (3)			
8. Conversational Implicature (1)			
9. Conversational Implicature (2)			
10. Conversational Implicature (3)			
11. 課題レポート中間発表			
12. Presupposition (1)			
13. Presupposition (2)			
14. Presupposition (3)			
15. まとめ			
[成績評価方法]			
研究発表を含めた授業参加(50%)＋レポート(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
Pragmatics 著者名:Stephen C. Levinson 出版社:Cambridge University Press. (978-0521294140)			
[参考書(ISBN)]			
授業中に指示する。			

科目名	英語学演習b	後期	2 単位
サブタイトル	語用論（2）		
担当者	南 佑亮		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標]			
・語用論 (pragmatics) の古典的文献であるLevinson (1983) の精読を通して、語用論研究の根幹を成す諸問題を理解する。			
・語用論における研究課題を見つけて議論し、分析を進める力を身につける。			
[授業概要]			
テキストを精読した上で、問題点を議論していく。受講生は指定の箇所を精読し、疑問点等を明確にした上で授業に臨むことが求められる。授業中に各自がテキストの内容に即した研究テーマを選んで文献調査を実施し、その成果をレポートにまとめる。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]			
・授業前: 次回に扱う予定の範囲を精読しながら、必要に応じて関連文献にも当たる。			
・授業後: 再度同じ箇所を精読し、その内容と問題点の理解を深める。			
[授業計画]			
1. Speech acts (1)			
2. Speech acts (2)			
3. Speech acts (3)			
4. Speech acts (4)			
5. Speech acts (5)			
6. Speech acts 関連文献の検討(1)			
7. Speech acts 関連文献の検討(2)			
8. Conversational Structure (1)			
9. Conversational Structure (2)			
10. Conversational Structure (3)			
11. Conversational Structure (4)			
12. Conversational Structure (5)			
13. Conversational Structure 関連文献の検討			
14. Conclusions			
15. まとめ			
[成績評価方法]			
研究発表を含めた授業参加(50%)＋レポート(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
Pragmatics 著者名: Stephen C. Levinson 出版社: Cambridge University Press. (978-0521294140)			
[参考書(ISBN)]			
授業中に指示する。			

科目名	英語学特論a	前期	2 単位
サブタイトル	認知言語学的構文研究		
担当者	南 佑亮		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] ・英語の様々な構文現象が認知言語学的な観点からそれぞれがどのように分析されているかを理解すること。 ・認知言語学的な観点から言語現象を見ることで、従来の観点からは見えなかった事実が浮き彫りになる過程を理解し、自らもそのような新たな発見を試みることができるようになること。			
[授業概要] 英語の構文現象を取り上げ、その基本的な特徴を紹介した上で、認知言語学的なアプローチによってそれぞれのどのように分析されるかを解説していく。講義科目ではあるが、受講生は教員が投げかける問いに積極的に答え、提示されている問題についての議論にも参加することが求められる。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] ・授業で提示されたアイデアや説明、分析などを常に批判的に検討し、より良い代案を提示できるように考えを巡らせておく。			
[授業計画] 1. はじめに: 認知言語学における構文研究 2. 二重目的語構文(1): 音韻・形態的・意味的制約 3. 二重目的語構文(2): Goldberg(1995)の構文的多義分析とその批判 4. 受益二重目的語構文(1): いわゆる受益交替に関する従来の常識 5. 受益二重目的語構文(2): 「常識」を覆す事例群について 6. 受益二重目的語構文(3): 代案について 7. Tough構文(1): 基本的特徴 8. Tough構文(2): 逸脱事例・周辺事例について 9. Tough構文(3): Pretty構文の謎 10. Way構文(1): 基本的特徴、従来の位置づけ 11. Way構文(2): Goldberg(1995)による転回 12. Way構文(3): 「手段」「様態」の二分法を超えて 13. 擬似二重性(qusi-duality)の問題(1): Kearns(2003) 14. 擬似二重性(qusi-duality)の問題(2): 発話行為論との接点 15. まとめ			
[成績評価方法] 授業中の課題(30%)＋レポート(70%) 授業中の課題は授業中にフィードバックをします。 レポートは講評を付けて返却します。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 授業時に資料を配布します。			
[参考書(ISBN)] 授業中に指示する。			

科目名	英語学特論b	後期	2 単位
サブタイトル	認知言語学的構文研究		
担当者	南 佑亮		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標]			
・英語の様々な構文現象が認知言語学的な観点からそれぞれがどのように分析されているかを理解すること。 ・認知言語学的な観点から言語現象を見ることで、従来の観点からは見えなかった事実が浮き彫りになる過程を理解し、自らもそのような新たな発見を試みることができるようになること。			
[授業概要]			
前期に引き続き、英語の構文現象を取り上げ、その基本的な特徴を紹介した上で、認知言語学的なアプローチによってそれぞれのどのように分析されるかを解説していく。講義科目ではあるが、受講生は教員が投げかける問いに積極的に答え、提示されている問題についての議論にも参加することが求められる。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]			
・授業で提示されたアイデアや説明、分析などを常に批判的に検討し、より良い代案を提示できるように考えを巡らせておく。			
[授業計画]			
1. はじめに: 授業概要、扱う現象について 2. 属性叙述文について(1): 叙述類型論の概要 3. 属性叙述文について(2): 中間構文vs.Tough構文 4. 心理述語と前置詞(1): Osmond (1997) 5. 心理述語と前置詞(2): Bolinger (1980) 6. 心理述語と前置詞(3): 例外的な事例の検討 7. 発話行為モダリティ(1): 澤田(2006)の主張 8. 発話行為モダリティ(2): 検証 9. グラウンディング(grounding)(1): Langacker (1990) 10. グラウンディング(grounding)(2): 妥当性と批判について 11. グラウンディング(grounding)(3): 事例研究 12. 法形容詞 (1) 13. 法形容詞 (2) 14. 最上級の否定 15. まとめ			
[成績評価方法]			
授業中の課題(30%)＋レポート(70%) 授業中の課題は授業中にフィードバックをします。 レポートは講評を付けて返却します。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
資料を授業中に配布する。			
[参考書(ISBN)]			
授業中に指示する。			

科目名	英文学演習 I a	前期	2 単位
サブタイトル	18世紀の英国喜劇を読む		
担当者	西出 良郎		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 今から240年以上前に書かれた戯曲であるので、英語自体は若干難しいが、まずテキストをきちんと正確に読め、1660年以降から18世紀前半にかけての英国の演劇史の流れを念頭に置いて、この作品が持つ演劇史的意義を明らかにすることを目標とする。			
[授業概要] 18世紀の英国は演劇が不毛の時代だと言われる。有名な俳優は出たが、肝心の演劇作品と言う点では、演劇史に残るような作品は少ない。本演習で取り上げるのは Oliver Goldsmith のShe Stoops to Conquer (1773) という喜劇であり、この喜劇はいまだに英国の舞台で演じられている。 Wit よりも humourとnatureを主眼とするこの喜劇は我々日本人にも大いに受けられると思われるが、劇作家の知名度が低いため、我が国で上演された例は皆無である。とにかく愉快的な喜劇であるので、18世紀という時代背景とユーモアに満ちたこの作品を毎回数頁程度精読しながらじっくりと味わいたい。 なお、受講生との相談により、教材の変更もあり得る。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業当日の予習は不可欠である。			
[授業計画] 1. Introduction 2. Act I 3. Act I 4. Act I 5. Act I 6. Act I 7. Act I 8. Act II 9. Act II 10. Act II 11. Act II 12. Act II 13. Act II 14. Act II 15. Review			
[成績評価方法] 授業への取り組み (50%), レポート(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 授業中に指示する。			
[参考書(ISBN)] 授業中指示する。			

科目名	英文学演習 I b	後期	2 単位
サブタイトル	18世紀の英国喜劇を読む		
担当者	西出 良郎		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 今から240年以上前に書かれた戯曲であるので、英語自体は若干難しいが、まずテキストをきちんと正確に読め、1660年以降から18世紀前半にかけての英国の演劇史の流れを念頭に置いて、この作品が持つ演劇史的意義を明らかにすることを目標とする。			
[授業概要] 前期に引き続いて行う授業であるが、後期からの受講でも可。 18世紀の英国は演劇が不毛の時代だと言われる。有名な俳優は出たが、肝心の演劇作品と言う点では、演劇史に残るような作品は少ない。本演習で取り上げるのは Oliver Goldsmith のShe Stoops to Conquer (1773) という喜劇であり、この喜劇はいまだに英国の舞台で演じられている。 Wit というよりhumourとnatureを主眼とするこの喜劇は我々日本人にも大いに受けられるが、劇作家の知名度が低いため、我が国で上演された例は皆無である。とにかく愉快的な喜劇であるので、18世紀という時代背景とユーモアに満ちたこの作品を毎回数頁程度精読しながらじっくりと味わいたい。 なお、受講生との相談により、教材の変更もあり得る。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業当日の予習は不可欠である。			
[授業計画] 1. Introduction 2. Act III 3. Act III 4. Act III 5. Act III 6. Act III 7. Act III 8. Act IV 9. Act IV 10. Act IV 11. Act IV 12. Act IV 13. Act IV 14. Act IV 15. Review			
[成績評価方法] 授業への取り組み(50%)、レポート(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] プリント配布			
[参考書(ISBN)] 授業中指示する。			

科目名	英文学演習Ⅱa	前期	2 単位
サブタイトル	18世紀のイギリス小説を読む		
担当者	湯谷 和女		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 近代イギリス小説の祖と称されるサミュエル・リチャードソンの代表作の『パミラ、または淑徳の報い』を読み、1740年から1771年にかけて開花した最初のイギリス小説の流れを念頭に置いて、この作品が持つ文学史的意義を明らかにすることを目標とする。			
[授業概要] リチャードソンの書簡手法は劇の手法である。作中人物が互いに交換する手紙は劇中の会話に相当する。読者は作中人物が描く手紙からその人を判断するだけでなく、他の人物の手紙を通して、他の人物がその作中人物をどのように見ているかをも知ることができる。リチャードソンの才能は、どの人物もその手紙の中で完全に個性化させていることである。 リチャードソンのその後の小説家への影響は測り知れないほど大きい。同時代のフィールディングやスモーレットが意識的にリチャードソンへの反動として書いていたとしても、やはり彼の影響を避けることはできなかった。ジョンソンが、リチャードソン「人間性についての認識を拡大した」と評したことは正しい。毎回数ページ程度精読し、イギリス小説の伝統の基を築いたリチャードソンの偉大さに触れてみたい。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業で取り上げる作品の予習を必ずおこなった上で授業に臨むこと。			
[授業計画] 1.Introduction 2.Letter I, Letter II 3.Letter III, Letter IV, Letter V 4.Letter VI, Letter VII, Letter VIII 5.Letter IX, Letter X 6.Letter XI, Letter XII 7.Letter XIII, Letter XIV 8.Letter XV, 9.Letter XVI 10.Letter XVII、Letter XVIII 11.Letter XIX 12.Letter XX 13.Letter XXI, Letter XXII 14.Letter XXIII 15.Review			
[成績評価方法] 平常点(50%)、レポート(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 授業中指示する			
[参考書(ISBN)] 授業中指示する			

科目名	英文学演習Ⅱb	後期	2 単位
サブタイトル	18世紀のイギリス小説を読む		
担当者	湯谷 和女		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 前期で取り上げたサミュエル・リチャードソンと並び、もう一人の近代イギリス小説の祖と称されるヘンリー・フィールディングの『トム・ジョーンズ』を読み、19世紀後半に至るまでイギリス小説の伝統を担った作家たちはみなフィールディングに源を発すると言われる理由を明らかにする。			
[授業概要] フィールディングの偉業とも言える『トム・ジョーンズ』は2世紀半以上過ぎた今でも数少ない最高の小説の一つと数えられている。『トム・ジョーンズ』はプロットが完成の極致を極めていると言われる。最小限の語りと短く素早い会話でテンポよく筋を運び、小説の終わりで、それまでに散りばめられたプロットが見事に結びつく構成になっている。 トム・ジョーンズは新しい種類の主人公で、人間としての弱さを露呈させるが、同時に勇敢で寛大で善意に満ちており読者の心を強く打つ。フィールディングはイギリス小説の偉大な原型であるとされ、それを最も有益に継承したのがジェイン・オースティンであると言われている。毎回数ページ程度精読しつつ、19世紀の小説の特色になったプロットがどのようにつながって物語が完結されていくかを考察する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業で取り上げる作品の予習を必ずおこなった上で授業に臨むこと。			
[授業計画] 1.Introduction 2.Volume I, I 3.Volume I, II 4.Volume I, III 5.Volume I, IV 6.Volume I, V 7.Volume I, VI 8.Volume I, VII 9.Volume I, VIII 10.Volume I, IX 11.Volume I, X 12.Volume I, XI 13.Volume I, XII 14.Volume I, XIII 15.Review			
[成績評価方法] 平常点(50%)、レポート(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 授業中指示する			
[参考書(ISBN)] 授業中指示する			

科目名	英文学特論 I a	前期	2 単位
サブタイトル	世紀末の英国喜劇研究		
担当者	西出 良郎		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 演劇はすべて舞台上で上演することを意図して書かれたものであるという前提に立って、戯曲の読み方を学び、世紀末の英国社会とワイルド喜劇の醍醐味である機智的表現に対する理解を深めることを主たる目標とする。 修士論文執筆に向けて、レポートの作成に習熟することも併せて目指したい。			
[授業概要] 英国の世紀末を代表する劇作家であるOscar Wilde のLady Windermere's Fan (1892) を取り上げる。ワイルドは多才な作家であるが、悲劇作品には恵まれず、わずか3年の間に矢継ぎ早に書かれた4編の喜劇作品によって劇作家として大きく開花した。本作品は処女作であるが大成功を収めた。 毎回数頁程度精読していく。「過去を持つ女」という共通のモチーフを取り入れながら、同時代の劇作家と比較して、女性像や劇の結末を意図的に変更したワイルドの狙い等を考察することにより、ワイルド喜劇の独創性を明らかにしたい。 なお、受講生との相談により教材を変更する場合もあり得る。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業でとり上げる部分の予習は毎回不可欠である。			
[授業計画] 1. Introduction 2. Act I 3. Act I 4. Act I 5. Act I 6. Act I 7. Act I 8. Act II 9. Act II 10. Act II 11. Act II 12. Act II 13. Act II 14. Act II 15. Review			
[成績評価方法] 授業へのとり組(50%), レポート((50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書 (ISBN)] 授業中指示する。			
[参考書 (ISBN)] 授業中指示する。			

科目名	英文学特論 I b	後期	2 単位
サブタイトル	世紀末の英国喜劇研究		
担当者	西出 良郎		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 演劇はすべて舞台上演することを意図して書かれたものであるという前提に立って、戯曲の読み方を学び、世紀末の英国社会とワイルド喜劇の醍醐味である機智的表現に対する理解を深めることを主たる目標とする。 修士論文執筆に向けて、英語によるレポートの作成に習熟することも併せて目指したい。			
[授業概要] 前期に引き続いて、英国の世紀末を代表する劇作家であるOscar Wilde のLady Windermere's Fan (1892) を取り上げる。ワイルドは多才な作家であるが、悲劇作品には恵まれず、わずか3年の間に矢継ぎ早に書かれた4編の喜劇作品によって劇作家として大きく開花した。本作品は処女作であるが大成功を収めた。 毎回数頁程度精読していく。「過去を持つ女」という共通のモチーフを取り入れながら、同時代の劇作家と比較して、女性像や結末を意図的に変更したワイルドの狙い等を考察することにより、ワイルド喜劇の独創性を明らかにしたい。 なお、受講生との相談により、教材の変更もあり得る。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業で取り上げる部分の予習は不可欠である。			
[授業計画] 1. Introduction 2. Act III 3. Act III 4. Act III 5. Act III 6. Act III 7. Act III 8. Act IV 9. Act IV 10. Act IV 11. Act IV 12. Act IV 13. Act IV 14. Act IV 15. Review			
[成績評価方法] 授業への取り組み(50%), レポート(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書 (ISBN)] プリント配布			
[参考書 (ISBN)] 授業中指示する。			

科目名	英文学特論Ⅱa	前期	2 単位
サブタイトル	20世紀のイギリス小説研究		
担当者	湯谷 和女		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 20世紀イギリスの女性短編作家のキャサリン・マンスフィールドの作品を読み、マンスフィールドがジェイムズ・ジョイスとともに彼ら以降の小説に指導的な影響を与えたと言われる所以を探る。簡潔な文体で繊細な感覚によって描かれ、人々の息づかいまで伝わると言われた文学技法を解き明かすことを目標とする。			
[授業概要] キャサリン・マンスフィールドの短編の中からMarriage ? la Mode, Honeymoon,A Cup of Tea, The Little Girlの4篇を取り上げる。マンスフィールドはニュージーランド生まれであるが、主にイギリスで作品を発表した。病のため短い作家生命に終わったが、中流階級の家庭に起きるささいな事件とそれにまつわる人間心理の機微を描いて高く評価されている。毎回数ページ程度精読していく。いずれの作品も単なる客観描写でなく、主人公の意識の流れが、あちこちに、なまのまま独白のような形で表現され、人間の心理をいきいきと躍動させる文体で描かれている。マンスフィールドがチェーホフの影響を受けている点を念頭に置き、作品に反映された人間の孤独や嫉妬といった心象を読み解く。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業で取り上げる作品の予習を必ずおこなった上で授業に臨むこと。			
[授業計画] 1.Introduction 2.Marriage ? la Mode 3.Marriage ? la Mode 4.Marriage ? la Mode 5.Marriage ? la Mode 6.Honeymoon 7.Honeymoon 8.Honeymonn 9.A Cup of Tea 10.A Cup of Tea 11.A Cup of Tea 12.The Little Girl 13.The Little Girl 14.The Little Girl 15.Review			
[成績評価方法] 平常点(50%)、レポート(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 授業中指示する			
[参考書(ISBN)] 授業中指示する			

科目名	英文学特論Ⅱb	後期	2 単位
サブタイトル	20世紀のイギリス小説研究		
担当者	湯谷 和女		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 20世紀イギリスの著名な女性作家のヴァージニア・ウルフの短編を読み、現代人にとって興味深い目に見えない人間の心理をいかに描くか、という課題にチャレンジしたウルフの「精神、生命、真理、真実」に迫る短編小説の創造技術を明らかにすることを目標とする。			
[授業概要] ヴァージニア・ウルフの短編の中からA Haunted House, Kew Gardens, The Mark on the Wallの3篇を取り上げる。ウルフは長編小説執筆中に心を休める目的で短編を創作したと言われている。またこれらの短編がそれに続く長編小説の翻案となることもあったため、授業では短編小説を読みながら、短編と長編の関連をも考える。毎回数ページ程度精読していく。現代人にとって興味がある目に見えない人の心理を、イギリス小説の明るさを保持しながら、ロシア小説の精神尊重を学び、新しい小説の創作方法を試みたウルフの作品の新しさを味わい、彼女の卓越した内面描写と外面描写の方法を明らかにする。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業で取り上げる作品の予習を必ずおこなった上で授業に臨むこと。			
[授業計画] 1.Introduction 2.A Haunted House 3.A Haunted House 4.A Haunted House 5.A Haunted House 6.A Haunted House 7.Kew Gardens 8.Kew Gardens 9.Kew Gardens 10.Kew Gardens 11.Kew Gardens 12.The Mark on the Wall 13.The Mark on the Wall 14.The Mark on the Wall 15.Review			
[成績評価方法] 平常点(50%)、レポート(50)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 授業中指示する			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	米文学演習 I a	前期	2 単位
サブタイトル	アメリカ演劇研究		
担当者	坂元 敦子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] アメリカ人劇作家による戯曲を英語で読み、アメリカ演劇に対する理解を深める。			
[授業概要] この授業ではアメリカを代表する劇作家であるTennessee Williamsの作品をとりあげ、丹念に読みながら作品にみられるアメリカ社会の特徴について考察する。作品の映画版と比較をおこなったり、原作に関する批評の検討もおこなうなど、さまざまな角度からアメリカ演劇について考察する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業で読む範囲を予習すること。			
[授業計画] 1. イントロダクション 2. アメリカ演劇の特徴 3. テネシー・ウィリアムズと南部作家 4-14. ウィリアムズの作品を読み、作品にみられるアメリカの特徴について考察する。 15. まとめ			
[成績評価方法] 授業への取組(60%)、レポート(40%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書 (ISBN)] A Streetcar Named Desire 著者名:Tennessee Williams 出版社:New Directions (978-0811216029)			
[参考書 (ISBN)] Tennessee Williams' A Streetcar Named Desire 著者名:Harold Bloom 出版社:Chelsea House (978-1555460532)			

科目名	米文学演習 I b	後期	2 単位
サブタイトル	アメリカ演劇研究		
担当者	坂元 敦子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] アメリカ人劇作家による戯曲を英語で読み、アメリカ演劇に対する理解を深める。			
[授業概要] この授業ではアメリカを代表する劇作家であるTennessee Williamsの作品をとりあげ、丹念に読みながら作品にみられるアメリカ社会の特徴について考察する。作品の映画版と比較をおこなったり、原作に関する批評の検討もおこなうなど、さまざまな角度からアメリカ演劇について考察する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業で読む範囲を予習すること。			
[授業計画] 1. イントロダクション 2. アメリカ演劇の特徴 3. テネシー・ウィリアムズと南部作家 4-14. ウィリアムズの作品を読み、作品にみられるアメリカの特徴について考察する。 15. まとめ			
[成績評価方法] 授業への取組(60%)、レポート(40%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書 (ISBN)] A Streetcar Named Desire 著者名:Tennessee Williams 出版社:New Directions (978-0811216029)			
[参考書 (ISBN)] Tennessee Williams' A Streetcar Named Desire 著者名:Harold Bloom 出版社:Chelsea House (978-1555460532)			

科目名	米文学演習Ⅱa	前期	2 単位
サブタイトル	字幕翻訳演習		
担当者	木村 恵子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 字幕という字数の限られた翻訳を理解する。			
[授業概要] アメリカを舞台とした映画を題材に、そのスクリプトを読み、字幕翻訳の仕方を学ぶ。ナレーション、会話特有の表現にも留意し、作品の文化的歴史的背景も考慮しながら翻訳を試みる。また自分の翻訳と実際の字幕との違いについても考えてみる。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] スクリプトを事前に配りますので読んでおいてください。			
[授業計画] 1. オリエンテーション(授業計画、成績評価方法の説明等)。スクリプト配布し、概要を説明する。 2. 映画を見る。あらすじをたどる。 3. 映画の歴史的・文化的背景を見る。登場人物に焦点を当てる。 4－14. 映画を英語字幕入りで見る。重要単語・表現・文法の解説。スクリプト部分の字幕翻訳を試みる。 15. 全体のまとめ			
[成績評価方法] 授業への取り組み(60%)、レポート(40%)で評価。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし。 著者名:x 出版社:x (x)			
[参考書(ISBN)] なし。 著者名:x 出版社:x (x)			

科目名	米文学演習Ⅱb	後期	2 単位
サブタイトル	字幕翻訳演習		
担当者	木村 恵子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 字幕という字数の限られた翻訳を理解する。			
[授業概要] アメリカを舞台とした映画を題材に、そのスクリプトを読み、字幕翻訳の仕方を学ぶ。ナレーション、会話特有の表現にも留意し、作品の文化的歴史的背景も考慮しながら翻訳を試みる。また自分の翻訳と実際の字幕との違いについても考えてみる。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] スクリプトを事前に配りますので読んでおいてください。			
[授業計画] 1. オリエンテーション(授業計画、成績評価方法の説明等)。スクリプト配布し、概要を説明する。 2. 映画を見る。あらすじをたどる。 3. 映画の歴史的・文化的背景を見る。登場人物に焦点を当てる。 4－14. 映画を英語字幕入りで見る。重要単語・表現・文法の解説。スクリプト部分の字幕翻訳を試みる。 15. 全体のまとめ			
[成績評価方法] 授業への取り組み(60%)、レポート(40%)で評価。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし 著者名:x 出版社:x (x)			
[参考書(ISBN)] なし 著者名:x 出版社:x (x)			

科目名	米文学特論 I a	前期	2 単位
サブタイトル	Eudora Weltyの作品から見るアメリカ南部		
担当者	坂元 敦子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] アメリカ南部作家による作品を読み、作品を通じてアメリカ南部の社会・文化の理解を深める。			
[授業概要] ユードラ・ウェルティはアメリカ南部ミシシッピ出身の作家であり、南部の人々やそのコミュニティを描いた短編の名手として知られている。彼女の作品は一見、人々のなげない日常を描いているようでありながら、そのユーモアあふれる描写の背後には南部の抱えるさまざまな問題が隠れている。授業ではOne Time, One Place, Why I Live at the P.O., A Worn Pathなどを丹念に読み、南部の地理や情景をたどりながら、作品にみられるアメリカ南部の特徴・歴史・文化について考える。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業で読む範囲を予習すること。			
[授業計画] 1. イントロダクション 2. アメリカ南部について 3. ユードラ・ウェルティと南部作家 4. ～14. ウェルティの作品を読み、アメリカ南部について考察する。 15. まとめ			
[成績評価方法] 授業への取組(60%)、レポート(40%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] The Collected Stories of Eudora Welty 著者名:Eudora Welty 出版社:Mariner Books (978-0156189217)			
[参考書(ISBN)] 『アメリカ南部小説を旅する ―ユードラ・ウェルティを訪ねて』 著者名:中村紘一 出版社:京都大学学術出版会 (978-4876988310)			

科目名	米文学特論 I b	後期	2 単位
サブタイトル	Eudora Weltyの作品から見るアメリカ南部		
担当者	坂元 敦子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] アメリカ南部作家による作品を読み、作品を通じてアメリカ南部の社会・文化の理解を深める。			
[授業概要] ユードラ・ウェルティはアメリカ南部ミシシッピ出身の作家であり、南部の人々やそのコミュニティを描いた短編の名手として知られている。彼女の作品は一見、人々のなげない日常を描いているようでありながら、そのユーモアあふれる描写の背後には南部の抱えるさまざまな問題が隠れている。授業ではOne Time, One Place, Why I Live at the P.O., A Worn Pathなどを丹念に読み、南部の地理や情景をたどりながら、作品にみられるアメリカ南部の特徴・歴史・文化について考える。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業で読む範囲を予習すること。			
[授業計画] 1. イントロダクション 2. アメリカ南部について 3. ユードラ・ウェルティと南部作家 4. ～14. ウェルティの作品を読み、アメリカ南部について考察する。 15. まとめ			
[成績評価方法] 授業への取組(60%)、レポート(40%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] The Collected Stories of Eudora Welty 著者名:Eudora Welty 出版社:Mariner Books (978-0156189217)			
[参考書(ISBN)] 『アメリカ南部小説を旅する ―ユードラ・ウェルティを訪ねて』 著者名:中村紘一 出版社:京都大学学術出版会 (978-4876988310)			

科目名	米文学特論Ⅱa	前期	2 単位
サブタイトル	ゴシック小説		
担当者	木村 恵子		

〔実務経験のある教員による授業〕

〔到達目標〕

アメリカ文学をゴシックの視点から見る。

〔授業概要〕

ゴシック小説とは、古城、修道院、地下窟、墓地、廃墟といったいわゆるゴシック風の環境を背景とし超自然的な怪奇を扱い、殺人が起きたり、亡霊の出没する、人々に恐怖や不安を与える小説を初期の段階ではさしている。その代表的な作者としてAnn Radcliffe, Mary Shelley, Bram Stoker, Matthew Lewisが挙げられる。やがてイギリスではそうしたタイプのゴシック小説は廃れ、その流れはドイツやアメリカに移っていった。

そしてイギリスのゴシック小説は、Charles Brockden Brownを介してアメリカへと広がっていく。Edgar Allan Poe, Nathaniel Hawthorne, Henry James, William Faulkner, Flannery O'Connor, Shirley Jackson, Richard Wright, Toni Morrison, Thomas Pynchon, Steven King, Anne Riceなど、広がりを見せ、アメリカ文学の中心的存在となっていたのである。そして、演劇や映画へも発展もみせている。いうなればアメリカ文学の主要な作家の多くがゴシック小説とかかわりをもっているのである。横断的に見ることにより、そのゴシック性の受け継がれを浮き彫りにしたい。

〔準備学修(授業前後の主体的な学修)〕

次週にテキストを読む場合は事前にその範囲を読んでください。

〔授業計画〕

【全て遠隔授業】

1 イントロダクション。授業計画、成績評価方法等の説明。

2 ゴシック小説の誕生について

3 イギリスにおけるゴシック小説(1)

4 イギリスにおけるゴシック小説(2)

5 イギリスにおけるゴシック小説(3)

6 アメリカンゴシックが生まれた背景

7 インディアンが存在

8ピューリタニズムの影

9 魔女狩り

10 Cotton Matherについて

11 フロンティアの恐怖

12 アメリカゴシック小説の誕生—Charles Brockden Brown

13 Edgar Allan Poe (1)

14 Edgar Allan Poe (2)

15. 全体のまとめ。

〔成績評価方法〕

授業への取り組み(30%)、レポート(70%)で総合的に評価。

〔オフィスアワー(質問等の受付方法)〕

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

〔教科書(ISBN)〕

<i>The Expanding World of the Gothic</i> 著者名:Keiko Kimura (ed) 出版社:朝日出版社
(9784255011615C3097)

〔参考書(ISBN)〕

なし。著者名:x 出版社:x (x)

科目名	米文学特論Ⅱb	後期	2 単位
サブタイトル	ゴシック小説		
担当者	木村 恵子		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]

アメリカ文学をゴシックの視点から見る。

[授業概要]

ゴシック小説とは、古城、修道院、地下窟、墓地、廃墟といったいわゆるゴシック風の環境を背景とし超自然的な怪奇を扱い、殺人が起きたり、亡霊の出没する、人々に恐怖や不安を与える小説を初期の段階ではさしている。その代表的な作者としてAnn Radcliffe, Mary Shelley, Bram Stoker, Matthew Lewisが挙げられる。やがてイギリスではそうしたタイプのゴシック小説は廃れ、その流れはドイツやアメリカに移っていった。

そしてイギリスのゴシック小説は、Charles Brockden Brownを介してアメリカへと広がっていく。Edgar Allan Poe, Nathaniel Hawthorne, Henry James, William Faulkner, Flannery O'Connor, Shirley Jackson, Richard Wright, Toni Morrison, Thomas Pynchon, Steven King, Anne Riceなど、広がりを見せ、アメリカ文学の中心的存在となっていたのである。そして、演劇や映画へも発展もみせている。いうなればアメリカ文学の主要な作家の多くがゴシック小説とかかわりをもっているのである。横断的に見ることにより、そのゴシック性の受け継がれを浮き彫りにしたい。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

次週取り上げるテキストの範囲をあらかじめ読んでおいてください。

[授業計画]

1 イントロダクション。授業計画、成績評価方法等の説明。前期の復習(1)。

2 前期の復習(2)。

3 Nathaniel Hawthorne (1)

4 Nathaniel Hawthorne (2)

5 Henry James (1)

6 Henry James (2)

7 Southern Gothicについて(1)

8 Southern Gothicについて(2)

9 Southern Gothicについて(3)

10 Female Gothicについて(1)

11 Female Gothicについて(2)

12 Female Gothicについて(3)

13 Modern Gothicについて(1)

14 Modern Gothicについて(2)

15. 全体のまとめ。

[成績評価方法]

授業への取り組み(30%)、レポート(70%)で総合的に評価。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]

<i>The Expanding World of the Gothic</i> 著者名:Keiko Kimura (ed) 出版社:朝日出版社
(9784255011615C3097)

[参考書(ISBN)]

授業時に提示する。 著者名:x 出版社:x (x)

科目名	論文指導演習a(英文学)	前期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	南 佑亮		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 【全て遠隔授業】 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] 授業中に指示する。 [参考書(ISBN)] 授業中に指示する。			

科目名	論文指導演習a(英文学)	前期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	木村 恵子		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし。 著者名:x 出版社:x (x) [参考書(ISBN)] なし。 著者名:x 出版社:x (x)			

科目名	論文指導演習a(英文学)	前期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	坂元 敦子		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習・研究・調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 学位論文の作成に合わせ、15回の授業計画を立てる。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] 授業で指示します。() [参考書(ISBN)] 授業で指示します。			

科目名	論文指導演習a(英文学)	前期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	西出 良郎		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] 適宜指示する。			

科目名	論文指導演習a(英文学)	前期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	湯谷 和女		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 学位論文の作成			
[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。			
[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。			
[成績評価方法] 総合評価による。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] 適宜指示する			

科目名	論文指導演習b(英文学)	後期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	南 佑亮		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 学位論文の作成			
[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。			
[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。			
[成績評価方法] 総合評価による。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習b(英文学)	後期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	木村 恵子		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし 著者名:x 出版社:x (x) [参考書(ISBN)] なし 著者名:x 出版社:x (x)			

科目名	論文指導演習b(英文学)	後期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	坂元 敦子		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習・研究・調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 学位論文の作成に合わせ、15回の授業計画を立てる。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] 授業で指示します。() [参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習b(英文学)	後期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	西出 良郎		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] 授業中指示する。 [参考書(ISBN)] 適宜指示する。			

科目名	論文指導演習b(英文学)	後期	2 単位
サブタイトル	論文指導		
担当者	湯谷 和女		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 学位論文の作成			
[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。			
[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。			
[成績評価方法] 総合評価による。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] 適宜指示する。			

日本史学専攻

科目名	西洋史学演習a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉村 真美		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 近年西洋近代史研究において焦点となっている諸問題について理解し、自身の視点から考察する。			
[授業概要] イギリスを中心とする西洋近代史に関する和文および英文の専門書や論文、同時代史料を輪読する。その後受講生は扱ったテーマからひとつを選択して、自身の問題関心や視点からの研究発表を行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 事前に配布した英文史料は予習し、授業時に英和辞典を持参すること。(初回授業時には不要)			
[授業計画] 1. 西洋近代史の諸問題(講義) 2. 文献についての解説 3. 文献の輪読(1) 4. 文献の輪読(2) 5. 文献の輪読(3) 6. 文献の輪読(4) 7. 文献の輪読(5) 8. 文献の輪読(6) 9. 文献の輪読(7) 10. 文献の輪読(8) 11. 文献の輪読(9) 12. 文献の輪読(10) 13. 研究発表(1) 14. 研究発表(2) 15. まとめ			
[成績評価方法] 英文史料読解の評価(50%)、発表1回(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	西洋史学演習b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉村 真美		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 近年西洋近代史研究において焦点となっている諸問題についての理解をさらに深め、自身の問題関心を世界史的な視野に広げる。			
[授業概要] イギリスを中心とする西洋近代史に関する和文および英文の専門書や論文を、同時代史料もあわせて輪読する。その後、それぞれが選択したテーマについて、受講生は自身の視点から研究発表を行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 事前に配布した史料は予習し、授業時に英和辞典を持参すること。(初回授業時には不要)			
[授業計画] 1. 西洋近代史の諸問題(講義) 2. 文献についての説明 3. 文献の輪読(1) 4. 文献の輪読(2) 5. 文献の輪読(3) 6. 文献の輪読(4) 7. 文献の輪読(5) 8. 文献の輪読(6) 9. 文献の輪読(7) 10. 文献の輪読(8) 11. 文献の輪読(9) 12. 文献の輪読(10) 13. 研究発表(1) 14. 研究発表(2) 15. まとめ			
[成績評価方法] 英文史料読解の内容(60%)と発表(40%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] 適宜指示する。			

科目名	西洋史学特殊研究a	前期	2 単位
サブタイトル	イギリス帝国史		
担当者	吉村 真美		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 帝国という視座からのイギリス近代史を多角的に考察・理解する。また、英文による教科書および同時代史料を読解する能力を身につける。			
[授業概要] イギリス帝国の歴史とその諸問題について、近年の新しい研究動向をふまえつつ多角的に考察する。とりわけ、イギリスのアジア（インド、中国、日本）認識とその変容、および帝国植民地におけるジェンダーとセクシュアリティについて、同時代史料を参照しながら理解を深める。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 講読形式の授業ではないが教科書にそって進めるので、毎回必ず指定箇所を事前に予習してくる。授業時に配布する同時代史料についても、同様に予習が必須である。必ず英和辞典を持参のうえ授業に出席すること。			
[授業計画] 【全て遠隔授業】 1. はじめに 2. 連合王国の成立 3. 大西洋貿易 4. 「新世界」への入植 5. 北米植民地の独立(1) 6. 北米植民地の独立(2) 7. オセアニア 8. インド(1) 9. インド(2) 10. 支配と被支配 11. ジェンダーとセクシャリティ(1) 12. ジェンダーとセクシャリティ(2) 13. 帝国の拡張 14. 脱植民地化 15. まとめ			
[成績評価方法] 授業時間内の発表25%、授業の事後課題15%、試験60%			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] 授業時に指示する			

科目名	西洋史学特殊研究b	後期	2 単位
サブタイトル	近代イギリスとマスキュリニティ		
担当者	吉村 真美		

〔実務経験のある教員による授業〕

〔到達目標〕

近代イギリスのマスキュリニティとその変容について、同時代の政治・社会・諸制度との関係をふまえて理解する。また、英文による教科書および同時代史料を読解できる能力を身につける。

〔授業概要〕

近代イギリス・ジェンダー史の研究動向を概観し、とりわけ近年注目されているマスキュリニティおよびマンリネス（男性性）について、同時代の政治・社会・諸制度との関わりに注目して考察する。

〔準備学修（授業前後の主体的な学修）〕

講読形式の授業ではないが教科書にそって進めるので、毎回必ず指定箇所を事前に予習してくる。授業時に配布する同時代史料についても、同様に予習が必須である。必ず英和辞典を持参のうえ出席すること。

〔授業計画〕

1. はじめに
2. 男らしさの形成
3. マスキュリニティ研究の動向
4. マスキュリニティの歴史 1750-1850(1)
5. マスキュリニティの歴史 1750-1850(2)
6. ヴィクトリア時代のマスキュリニティ(1)
7. ヴィクトリア時代のマスキュリニティ(2)
8. フェミニズムとマスキュリニティ
9. 家族史とマスキュリニティ(1)
10. 家族史とマスキュリニティ(2)
11. 帝国とマスキュリニティ(1)
12. 帝国とマスキュリニティ(2)
13. 帝国とマスキュリニティ(3)
14. 展望
15. まとめ

〔成績評価方法〕

教科書および欧文史料の読解(50%)と、論述試験1回(50%)で評価する。

〔オフィスアワー（質問等の受付方法）〕

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

〔教科書(ISBN)〕

なし

〔参考書(ISBN)〕

適宜指示する。

科目名	東洋史学演習a	前期	2 単位
サブタイトル	東アジア世界の理解		
担当者	鈴木 宏節		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 東洋史に関する基礎知識を文献を読解しながら習得する。それと同時に、研究テーマに対する多様なアプローチ方法を学び、論文執筆のための情報収集能力と分析能力を高める。			
[授業概要] 概説書のなかに現れる東アジア・中国前近代史の基本問題を各自の問題意識に基づき抽出し、史料批判をおこないながら考察を深める。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 講読文献、史料は必ず予習して不明箇所を把握してくる。また、アジア史全般に関わる概説書や一般書、論文を紹介するので、授業に前後して読んでくること。			
[授業計画] 1. 導入 東アジア史の問題点 2. 東洋史の成り立ちと基礎知識(1)歴史学と東洋学 3. 東洋史の成り立ちと基礎知識(2)西洋史と東洋史 4. 文献講読と考察(1)ユーラシア大陸の環境 5. 文献講読と考察(2)農業遊牧境界線 6. 文献講読と考察(3)コンスタンティノープルとキリスト教圏 7. 文献講読と考察(4)バグダードとイスラーム教圏 8. 文献講読と考察(5)長安と仏教圏 9. 総括 課題点と関心のまとめ(1)ユーラシア大陸の三つの古典文化 10. 選定文献の講読と考察(1)中国史の基本構造 11. 選定文献の講読と考察(2)秦漢帝国と帝都構造 12. 選定文献の講読と考察(3)隋唐帝国と帝都構造 13. 選定文献の講読と考察(4)長安の都市プラン 14. 選定文献の講読と考察(5)長安の生活空間 15. 総括 課題点と関心のまとめ(2)長安から開封、北京へ			
[成績評価方法] 授業への取り組み(60%)＋レポート(40%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 『長安の都市計画』(講談社選書メチエ223) 著者名:妹尾達彦 出版社:講談社 (4062582236) 『世界史序説 ―アジア史から一望する』(ちくま新書1342) 著者名:岡本隆司 出版社:筑摩書房 (978-4-480-07155-2)			
[参考書(ISBN)] 適宜紹介する。			

科目名	東洋史学演習b	後期	2 単位
サブタイトル	中央ユーラシアから見る世界史		
担当者	鈴木 宏節		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] アジアならびに東洋史に関する基礎知識を文献を読解しながら習得する。それと同時に、研究テーマに対する多様なアプローチ方法を学び、論文執筆のための情報収集能力と分析能力を高める。			
[授業概要] 現在、東アジアないし中国史は様々な角度から再検討がすすめられています。本演習では、一国史の問題点を把握した上で、実際に「ユーラシア東部地域」あるいは「中央ユーラシア」の視点から立論された文献を考察してゆきます。まずは、いかにして東アジア／中国史が相対化できるかを議論し、次にユーラシアという地域設定がなされた背景を検証してゆきます。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 基本的には毎回プリントを配布してゆきます。具体的な講読テキストは受講生の関心に従って選定します。また、テキストはあらかじめ通覧し予習しておくこと。関連の概説書や論文を紹介するので、読んでくること。			
[授業計画] 1. 導入 ユーラシアとアジアの基礎知識 2. 一国史の問題点(1)中国とは何か？ 3. 一国史の問題点(2)日本国の成り立ち 4. 一国史の問題点(3)国境を越えるひとびと 5. ユーラシア関連論文の講読と考察(1)遊牧民とは何か？ 6. ユーラシア関連論文の講読と考察(2)遊牧国家とは何か？ 7. ユーラシア関連論文の講読と考察(3)草原遊牧民とオアシス農耕民 8. ユーラシア関連論文の講読と考察(4)シルクロードとは？ 9. 総括 問題点の抽出 草原とオアシスの中央ユーラシア 10. ユーラシア関連論文の講読と考察(5)トルコ系遊牧国家の成り立ち 11. ユーラシア関連論文の講読と考察(6)トルコ人の西遷とイスラーム化 12. ユーラシア関連論文の講読と考察(7)モンゴル帝国の成り立ち 13. ユーラシア関連論文の講読と考察(8)モンゴル帝国のその後 14. ユーラシア関連論文の講読と考察(9)近世のモンゴル継承国家 15. 総括 問題点の抽出 モンゴルとアフロ・ユーラシア世界の統合			
[成績評価方法] 授業への取り組み(60%)＋レポート(40%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] 『中央ユーラシア史』(新版世界各国史4) 著者名:小松久男(編) 出版社:山川出版社(463441340X) 『世界史の誕生』(ちくま文庫) 著者名:岡田英弘 出版社:筑摩書房(4480035044) 『遊牧民から見た世界史』(日経ビジネス人文庫) 著者名:杉山正明 出版社:日本経済新聞出版社(4532195993) その他、適宜紹介する。			

科目名	東洋史学特殊研究a	前期	2 単位
サブタイトル	前近代中央ユーラシア・東アジア世界の歴史的展開		
担当者	鈴木 宏節		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 東洋史に関する文献を精読したうえで、原典を検証するという史料批判のプロセスを習得する。それと同時に、研究テーマに対する多様なアプローチ方法を学び、論文執筆のための情報収集能力と分析能力を高める。			
[授業概要] 中国の前近代史が直面している問題とは何か？ 石見清裕『唐代の国際関係』（世界史リブレット97、山川出版社、2009年）をテキストに最新の研究動向を把握する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 基本文献について説明するので、それらを使い可能な限り予習をしてくること。必要に応じてレジュメを作成し口頭報告してもらうこともある。また、関連文献を紹介するので、検索し研究動向の把握につとめる。			
[授業計画] 1. 中国史の基本構造(1)ユーラシアとアジアの関係 2. 中国史の基本構造(2)東アジアと北アジアの関係 3. 文献と史料講読(1)唐という国を考えるにあたって 4. 文献と史料講読(2)唐王朝の成立 5. 文献と史料講読(3)隋唐皇室の系譜 6. 文献と史料講読(4)六鎮の乱と北族の南下 7. 文献と史料講読(5)隋末の乱と唐の建国 8. 北アジア史の基本問題(1)内陸アジアの遊牧民と隊商民 9. 東アジア史の基本問題(2)長安と外交儀礼 10. 文献と史料講読(6)唐の国際秩序理念 11. 文献と史料講読(7)唐代国際関係の変遷 12. 文献と史料講読(8)朝貢における財貨交換の構造 13. 文献と史料講読(9)海商の時代へ 14. 文献と史料講読(10)九世紀のユーラシアと中国 15. 総括 東アジアにおける唐という時代			
[成績評価方法] 授業への取り組み(60%)＋レポート(40%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 『唐代の国際関係』（世界史リブレット97） 著者名:石見清裕 出版社:山川出版社（978-4-634-34935-3）			
[参考書(ISBN)] 適宜紹介する。			

科目名	東洋史学特殊研究b	後期	2 単位
サブタイトル	東アジアと西アジアの歴史的展開		
担当者	鈴木 宏節		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 東洋史に関する文献や論文を精読し、史料批判のプロセスを習得する。それと同時に、研究テーマに対する多様なアプローチ方法を学び、論文執筆のための情報収集能力と分析能力を高める。			
[授業概要] 近世のアジアが直面した問題とは何だったのだろうか？ 林佳世子『オスマン帝国の時代』と岸本美緒『東アジアの「近世」』（世界史リブレット19、13、山川出版社、1997年、1998年）をテキストに西アジアと東アジアの近世を理解する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 現代のアジア情勢を意識しつつ、文献を精読した上で授業に出席すること。必要に応じ、レジュメを作成して解説を求めることがある。			
[授業計画] 1. 導入 西アジアの近世におけるオスマン帝国の意義 2. 文献講読(1)オスマン帝国を生んだ世界 3. 文献講読(2)オスマン帝国史の展開 4. 文献講読(3)軍事制度と徴税システム 5. 文献講読(4)中央官僚制度 6. 文献講読(5)オスマン帝国下の社会 7. 文献講読(6)分権化の時代へ 8. 導入 東アジアの時代区分 9. 文献講読(1)近世における大清帝国の意義 10. 文献講読(2)貨幣への欲望ー銀 11. 文献講読(3)南と北の花形商品ー生糸と人参 12. 文献講読(4)戦争と技術交流ー火器 13. 文献講読(5)新しい作物ー煙草と甘薯 14. 文献講読(6)東アジアにおける西洋の衝撃 15. 総括 アジアの近代とは			
[成績評価方法] 授業への取り組み(60%)＋レポート(40%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 『オスマン帝国の時代』(世界史リブレット19) 著者名:林佳世子 出版社:山川出版社 (4634341905) 『東アジアの「近世」』(世界史リブレット13) 著者名:岸本美緒 出版社:山川出版社 (4634341301)			
[参考書(ISBN)] 授業中に適宜紹介する。			

科目名	日本史学演習 I a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 晋次		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 漢文史料の読解力を高める。			
[授業概要] 奈良・平安期の諸史料を、輪番で担当者を決めて読み進めていく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 担当部分以外についても、事前に自分なりの訓読・解釈をほどこしておく。			
[授業計画] 【全て遠隔授業】 1. ガイダンス 2. 講読1 3. 講読2 4. 講読3 5. 講読4 6. 講読5 7. 講読6 8. 講読7 9. 講読8 10. 講読9 11. 講読10 12. 講読11 13. 講読12 14. 講読13 15. まとめ			
[成績評価方法] 報告内容80%・受講態度20%			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし 著者名:― 出版社:― (―)			
[参考書(ISBN)] なし 著者名:― 出版社:― (―)			

科目名	日本史学演習 I b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 晋次		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 漢文史料の読解力を高める。			
[授業概要] 奈良・平安期の諸史料を、輪番で担当者を決めて読み進めていく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 担当部分以外についても、事前に自分なりの訓読・解釈をほどこしておく。			
[授業計画] 1. ガイダンス 2. 講読(1) 3. 講読(2) 4. 講読(3) 5. 講読(4) 6. 講読(5) 7. 講読(6) 8. 講読(7) 9. 講読(8) 10. 講読(9) 11. 講読(10) 12. 講読(11) 13. 講読(12) 14. 講読(13) 15. まとめ			
[成績評価方法] 報告内容および受講態度			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし 著者名:― 出版社:― (―)			
[参考書(ISBN)] なし 著者名:― 出版社:― (―)			

科目名	日本史学演習Ⅱa	前期	2 単位
サブタイトル	『政基公旅引付』の世界(前半)		
担当者	永松 圭子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標]			
1.『政基公旅引付』の講読によって日記史料の読解力を深める。			
2. 戦国時代に生きた人々の行動・心性を理解する。			
[授業概要]			
戦国時代、九条政基は家領和泉国日根荘に4年間滞在して、『政基公旅引付』を著した。この日記には、荘園領主・守護・根来寺の荘園支配をめぐるやりとりや、村の四季、祭りや芸能、戦争と飢饉等が描かれており、当時の武士・僧侶・農民等の姿を生き生きと伝える希有な史料である。村の生活に関わる記事を一年のサイクルで抜粋し、現代語訳を行う。そして史料中の用語や背景を解説し、村民はどのように生活していたかを考える。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]			
『政基公旅引付』白文と読み下し文を対照し、返り点を付ける。そして史料中の語句の説明を読み、現代語訳を行う。授業の後、返り点の打ち方の復習を行い、興味を持った事項について調べる。各回、予習復習合わせて4時間程度。			
[授業計画]			
【全て遠隔授業】			
1.『政基公旅引付』について			
2. 正月の行事			
3. 窃盗事件と裁判			
4. 2・3月一飢饉・疫病			
5. 正円右馬事件			
6. 4月一祭りと田植え・麦刈			
7. 5月一端午の節句、根来寺			
8. 6月一守護方の来襲と防御			
9. 7月一盂蘭盆・風流			
10. 8月一雨乞・祭り			
11. 戦争と村民			
12. 佐藤久信の反乱			
13. 9・10月一年貢の収納			
14. 11・12月一麦播・ホタキ			
15. 村民の1年の生活			
[成績評価方法]			
レポート(50%)、授業中の課題の達成度(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
資料を配布する。			
[参考書(ISBN)]			
参考文献は授業中随時指示する。			

科目名	日本史学演習Ⅲa	前期	2 単位
サブタイトル	近世古文書の解読と整理		
担当者	村田 路人		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 以下の4点を到達目標とする。①難度の高い近世古文書を解読することができる、②最新の史料学をふまえ、未整理の近世古文書群を整理することができる、③近世古文書の現地調査ができる、④歴史学研究における史料の位置づけについて理解できる。			
[授業概要] 最新の史料学をふまえ、本学所蔵の近世古文書の整理を行う。その作業を通して、高度の近世古文書解読能力と近世古文書整理能力を養う。また、古文書調査合宿(時期は未定)を通して、近世古文書の現地調査能力を養う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 毎回の古文書整理において、当然読むことのできないくずし字に遭遇するが、その場合、当該古文書の写真を撮影し、次回の演習までに読めるようにしておく。			
[授業計画] 【全て遠隔授業】 1. 授業の進め方 2. 未整理近世古文書の整理1 3. 未整理近世古文書の整理2 4. 未整理近世古文書の整理3 5. 未整理近世古文書の整理4 6. 未整理近世古文書の整理5 7. 未整理近世古文書の整理6 8. 未整理近世古文書の整理7 9. 未整理近世古文書の整理8 10. 未整理近世古文書の整理9 11. 未整理近世古文書の整理10 12. 未整理近世古文書の整理11 13. 未整理近世古文書の整理12 14. 未整理近世古文書の整理13 15. 未整理近世古文書の整理14			
[成績評価方法] 演習中に判断される古文書読解整理能力20%、期末試験80%			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし 著者名:なし 出版社:なし (なし)			
[参考書(ISBN)] 増訂近世古文書解読字典 著者名:林英夫・若尾俊平他 出版社:柏書房 (ISBN4-7601-0003-2)			

科目名	日本史学演習Ⅱb	後期	2 単位
サブタイトル	『政基公旅引付』の世界(後半)		
担当者	永松 圭子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標]			
1. 『政基公旅引付』の講読によって日記史料の読解力を深める。			
2. 戦国時代に生きた人々の行動・心性を理解する。			
[授業概要]			
九条政基が下向した文亀元年と文亀2年・永正元年の出来事を中心に、『政基公旅引付』を読み進める。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]			
戦国時代に関する参考書を読んで、理解を深めておく。授業の後に、返り点の打ち方の復習を行い、興味を持った事項について調べる。			
[授業計画]			
1. 下向前の覚書			
3. 下向前の政治情勢			
4. 文亀元年3月条			
5. 文亀元年4月1日条			
6. 文亀元年4月2～5日条			
7. 文亀元年4月6日条			
8. 文亀元年4月12日条			
9. 文亀元年4月2～5月1日条			
10. 文亀元年5月8・11・13日条			
12. 文亀元年8月6日条			
13. 文亀2年7月7日～21日条			
14. 永正元年7月19日条			
15. 参考文献の要旨・感想の報告を行う。			
[成績評価方法]			
レポート(50%)、授業中の課題の達成度(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
資料を配布する。			
[参考書(ISBN)]			
参考文献は授業中随時指示する。			

科目名	日本史学演習Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル	近世古文書の整理と近世史料学の検討		
担当者	村田 路人		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 以下の4点を到達目標とする。①難度の高い近世古文書を解読することができる、②最新の史料学をふまえ、未整理の近世古文書群を整理することができる、③近世古文書の現地調査ができる、④歴史学研究における史料の位置づけについて理解できる。			
[授業概要] 前期に引き続き、最新の史料学をふまえ、本学所蔵の近世古文書の整理を行う。その作業を通して、高度の近世古文書解読能力と近世古文書整理能力を養う。また、古文書調査合宿(時期は未定)を通して、近世古文書の現地調査能力を養う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 毎回の古文書整理において、当然読むことのできないくずし字に遭遇するが、その場合、当該古文書の写真を撮影し、次回の演習までに読めるようにしておく。			
[授業計画] 1. 未整理近世古文書の整理1 2. 未整理近世古文書の整理2 3. 未整理近世古文書の整理3 4. 未整理近世古文書の整理4 5. 未整理近世古文書の整理5 6. 未整理近世古文書の整理6 7. 未整理近世古文書の整理7 8. 未整理近世古文書の整理8 9. 未整理近世古文書の整理9 10. 未整理近世古文書の整理10 11. 未整理近世古文書の整理11 12. 未整理近世古文書の整理12 13. 未整理近世古文書の整理13 14. 未整理近世古文書の整理14 15. 未整理近世古文書の整理15			
[成績評価方法] 演習中に判断される古文書読解整理能力20%、期末試験80%			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし 著者名:なし 出版社:なし (なし)			
[参考書(ISBN)] 増訂近世古文書解読字典 著者名:林英夫・若尾俊平他 出版社:柏書房 (ISBN4-7601-0003-2)			

科目名	日本史学演習Ⅳa	前期	2 単位
サブタイトル	日本近現代史の研究動向		
担当者	松下 孝昭		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 日本近現代史に関する各自の問題関心を披瀝した上で、それに関連する研究書や専門論文を選定して全員で輪読し、討論する。その中から各自の課題意識を明確にし、具体的な実証研究の発表をおこない、質疑応答を繰り返していく。日本近現代史に関する学術論文の作成にあたっては、既存の研究を正確に整理するとともに、それを批判的にとらえ、自分のオリジナルな説を提唱することが求められるだけに、そうした議論の立て方を重点的に指導していく。			
[授業概要] 研究書や専門論文の輪読が中心となる。発表者は毎回レジュメを用意し、論点や疑問点を整理する。それに沿って他の参加者と質疑応答を重ね、日本近現代史に関する論点を深めてゆく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] まずは日本近現代史に深い関心を持つことが必要である。次いで、日本近現代史に関する論文・専門書を効率よく検索する方法を身につけ、積極的に図書館等でコピーを入手する姿勢が求められる。			
[授業計画] 1. 各自の問題関心の披瀝 2. 日本近現代史研究の動向(講義) 3. 専門書・論文の輪読(1) 4. 専門書・論文の輪読(2) 5. 専門書・論文の輪読(3) 6. 専門書・論文の輪読(4) 7. 専門書・論文の輪読(5) 8. 中間的な論点整理 9. 専門書・論文の輪読(6) 10. 専門書・論文の輪読(7) 11. 専門書・論文の輪読(8) 12. 専門書・論文の輪読(9) 13. 専門書・論文の輪読(10) 14. 中間的な論点整理 15. まとめ			
[成績評価方法] 受講状況と、発表内容・質疑応答の状況等を総合して評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	日本史学演習Ⅳb	後期	2 単位
サブタイトル	日本近現代史をめぐる最新の研究動向		
担当者	松下 孝昭		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 日本近現代史に関する各自の問題関心を披瀝してもらい、それに関連する研究書や専門論文を選定して全員で輪読し、討論する。その中から各自の課題意識を明確にし、具体的な実証研究の発表をおこない、質疑応答を繰り返していく。あわせて、日本近現代史に関する学術論文の作成に向けた方向づけをおこないたい。			
[授業概要] 当初は、日本近現代史に関する研究書や専門論文の輪読を中心とする。発表者は毎回レジュメを用意して論点や疑問点を整理し、その後の質疑応答にのぞむ。後半は、各自の課題意識に沿った研究発表を中心とし、演習形式での授業を継続する。その際には、作成中の論文の内容に関する発表も織り込むことにする。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日本近現代史に関する高度に学術的な研究の把握につとめるので、問題関心を豊富に有していることが前提となる。			
[授業計画] 1. 受講者の問題関心の披瀝 2. 今後の研究指針の見定め 3. 専門書・論文の輪読(1) 4. 専門書・論文の輪読(2) 5. 専門書・論文の輪読(3) 6. 専門書・論文の輪読(4) 7. 専門書・論文の輪読(5) 8. 中間的な論点整理 9. 各自の研究発表(1) 10. 各自の研究発表(2) 11. 各自の研究発表(3) 12. 各自の研究発表(4) 13. 各自の研究発表(5) 14. 中間的な論点整理 15. まとめの質疑応答			
[成績評価方法] 受講状況と発表内容を総合して評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	日本史学演習Ⅴa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	寺沢 知子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 日本考古学に関する最近の研究の成果についての論文を批判的に検討し、問題点を分析する。			
[授業概要] 古代の交易について最新の研究論文をとりあげる。問題点を的確に把握し、批判・分析する能力を高め、各自の研究手法に活かしていけるように指導する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 論文の読み込みとまとめの提出。発表者はレジュメの作成。			
[授業計画] 【全て遠隔授業】 1. 各自の研究の方向性の発表① 2. 各自の研究の方向性の発表② 3. 研究論文の検討 倭国の交易① 4. 各自の研究発表 5. 研究論文の検討 倭国の交易② 6. 各自の研究発表 7. 研究論文の検討 古代の交易① 8. 各自の研究発表 9. 研究論文の検討 倭国の交易③ 10. 各自の研究発表 11. 研究論文の検討 倭国の交易④ 12. 各自の研究発表 13. 研究論文の検討 古代の交易② 14. 各自の研究発表 15. まとめ			
[成績評価方法] 分担発表の内容を中心にした平常点			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] 適宜指示する			

科目名	日本史学演習 Vb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	寺沢 知子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 日本考古学に関する研究の成果のなかで、特に各自の研究テーマに関わる論文を中心とした諸問題の検討と自論の発表。			
[授業概要] 最新の研究論文の問題点を的確に把握し、分析する能力を高め、各自の研究手法に活かせるように指導し、その具体的成果を発表させる。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 論文の読み込みとまとめの作成。発表者はレジュメの作成。			
[授業計画] 1. 各自の研究発表① 2. 各自の研究発表② 3. 各自の研究発表③ 4. 研究史作成指導① 6. 研究史作成指導③ 7. 分析手法の指導① 8. 分析手法の指導② 9. 分析手法の指導③ 10. 分析手法の指導④ 11. 分析手法の指導⑤ 12. 各自の研究発表① 13. 各自の研究発表② 14. 各自の研究発表③ 15. まとめ			
[成績評価方法] 分担発表の内容を中心にした平常点			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] 適宜指示する			

科目名	日本史学特論 I a	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 晋次		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 近年の日本史学界において大きく進展している国際交流史研究の現状および問題点・課題などを理解する。			
[授業概要] 国際交流史研究における重要な論著を、輪番で報告を担当しながら読み進めていく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業時に配布する資料や紹介する参考文献に事前に目を通したうえで授業に出席する。			
[授業計画] 【全て遠隔授業】 1. ガイダンス 2. 研究史の概要(1) 3. 研究史の概要(2) 4. 研究史の概要(3) 5. 研究史の概要(4) 6. 論著購読(1) 7. 論著購読(2) 8. 論著購読(3) 9. 論著購読(4) 10. 論著購読(5) 11. 論著購読(6) 12. 論著購読(7) 13. 論著購読(8) 14. 論著購読(9) 15. まとめ			
[成績評価方法] 報告内容および受講態度			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし 著者名:― 出版社:― (―)			
[参考書(ISBN)] なし 著者名:― 出版社:― (―)			

科目名	日本史学特論 I b	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 晋次		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 近年日本史学界においても大きく進展している「海域史」研究の現状および問題点・課題などを理解する。			
[授業概要] 近年の「海域史」研究における諸成果について講義し、あわせて今後の課題なども提示する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 授業時に配布するレジュメや紹介する参考文献に事前に目を通したうえで授業に出席する。			
[授業計画] 1. ガイダンス 2. 海域史研究の諸成果(1) 3. 海域史研究の諸成果(2) 4. 海域史研究の諸成果(3) 5. 海域史研究の諸成果(4) 6. 海域史研究の諸成果(5) 7. 海域史研究の諸成果(6) 8. 海域史研究の諸成果(7) 9. 海域史研究の諸成果(8) 10. 海域史研究の諸成果(9) 11. 海域史研究の諸成果(10) 12. 海域史研究の諸成果(11) 13. 海域史研究の諸成果(12) 14. 海域史研究の諸成果(13) 15. まとめ			
[成績評価方法] 受講態度20%・レポート80%			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし。適宜レジュメなどを配布する。 著者名:― 出版社:― (―)			
[参考書(ISBN)] なし 著者名:― 出版社:― (―)			

科目名	日本史学特論Ⅱa	前期	2 単位
サブタイトル	古代の税と収取システム		
担当者	永松 圭子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標]			
1. 古代における税関連史料を読んで理解する。			
2. 古代社会の変容と収取システムの変化の過程を理解し、その矛盾と対立の様相を追究する。			
[授業概要]			
現代社会において、税金をめぐる問題は最も大きな関心を集めている。前近代においても、古代・中世の社会構造や特質に応じて、独自の税体系が形成され、収取システムが構築されてきた。その中で、古代社会における税がどのようにして成立し、収取体系が形成され、変化していったか、収取をめぐる矛盾と対立がどのようなものであったか、人々は税をどう意識していたのか等、長いスパンのもとで考えてみたい。基本的な税以外に、慣習として徴収されていた付加物にも焦点をあてて講義を行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]			
税金に関するニュースに関心を持つこと。配布プリントに記された史料をよく読んで復習し、興味を持った項目について調べる。			
[授業計画]			
【全て遠隔授業】			
1. 税について			
2. 律令制以前の税と貢納			
3. 律令国家と租庸調			
4. “ 前分・耗			
5. 9世紀 律令制の変容・転換			
6. 貞観地震と気候変動			
7. 10世紀 受領制と税			
8. 行政機構の変化と負名体制			
9. 官物・臨時雑役の成立			
10. 「今昔物語」の説話に見える受領像			
11. 尾張国解文にみる税			
12. 受領と中央財政			
13. 中世的収取体系への移行			
14. 開発・郡郷制の改編			
15. 各自関心を持った論文の内容を要約し、その成果と問題点を発表する。			
[成績評価方法]			
授業中の課題(50%)、レポート(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
レジュメ・資料を作成し配布する。			
[参考書(ISBN)]			
参考文献は授業中に随時指示する。			

科目名	日本史学特論Ⅱb	後期	2 単位
サブタイトル	中世の税と収取システム		
担当者	永松 圭子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標]			
1. 中世における税関連史料を読んで理解する。			
2. 中世社会における税と収取システムの特徴を理解し、その矛盾と対立の様相を追究する。			
[授業概要]			
前期に引き続き、中世成立期～後期までを対象として講義を行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]			
税金に関するニュースに関心を持つこと。配布プリントに記された史料をよく読んで復習し、興味を持った項目について調べる。			
[授業計画]			
1. 中世社会の成立			
2. 院政			
3. 荘園公領制の形成			
4. 鎌倉幕府の成立			
5. 中世農民の負担			
6. 検注と饗応			
7. 鎌倉後期における荘園制の動揺			
8. 南北朝・室町期における荘園制の再編			
9. 守護勢力の伸長			
10. 半済と代官請			
11. 惣村と地下請			
12. 段銭と公田体制			
13. 酒屋役・土倉役、有徳銭			
14. 贈与と信用			
15. 各自関心を持った論文の内容を要約し、その成果と問題点を発表する。			
[成績評価方法]			
授業中の課題(50%)、レポート(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
レジュメ・資料を作成し配布する。			
[参考書(ISBN)]			
参考文献は授業中に随時指示する。			

科目名	日本史学特論Ⅲa	前期	2 単位
サブタイトル	続近世畿内近国支配論 その1		
担当者	村田 路人		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 本講義では、①近世の畿内近国地域における支配の実態と特質を理解する、②近世支配分析の方法を理解する、の2点を到達目標とする。			
[授業概要] 江戸時代、幕府は畿内近国地域(上方地域)を政治的・軍事的・経済的にきわめて重要な地域として位置づけていた。また、このことに関連して、当該地域においてはきわめて特徴的な性格の支配が展開していた。講義では、畿内近国地域で展開していた支配の実態と特質を明らかにするが、今年度は、触の伝達を手がかりに検討する。前期では、畿内近国地域の村々にもたらされたさまざまな触を類型化し、それぞれについてその実態を紹介するとともに、それを通して近世畿内近国支配の特質にも言及する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 随時、近世支配に関する必読文献を紹介するので、それを読んでおくこと。			
[授業計画] 1. 課題と方法 2. 近世畿内近国支配論の研究史1 3. 近世畿内近国支配論の研究史2 4. 畿内近国地域の所領構成の実態と特質1 5. 畿内近国地域の所領構成の実態と特質2 6. 畿内近国地域における二種の支配—個別領主支配と広域支配—1 7. 畿内近国地域における二種の支配—個別領主支配と広域支配—2 8. 畿内近国地域における領分触1 9. 畿内近国地域における領分触2 10. 畿内近国地域における領分触3 11. 畿内近国地域における広域触1 12. 畿内近国地域における広域触2 13. 畿内近国地域における広域触3 14. 畿内近国地域における広域触4 15. 講義のまとめ			
[成績評価方法] 期末試験のみによる。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし 著者名:なし 出版社:なし (なし)			
[参考書(ISBN)] 『近世広域支配の研究』 著者名:村田路人 出版社:大阪大学出版会 (ISBN4-87259-015-5) 『近世畿内近国支配論』 著者名:村田路人 出版社:塙書房 (ISBN978-4-8273-1302-4)			

科目名	日本史学特論Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル	続近世畿内近国支配論 その2		
担当者	村田 路人		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]

本講義では、①近世の畿内近国地域における支配の実態と特質を理解する、②近世支配分析の方法を理解する、の2点を到達目標とする。

[授業概要]

前期に引き続き、近世畿内近国地域(上方地域)における触伝達のあり方について論じるが、今期の授業では、触はどのようにして村に達したのか、村では触をどのように書き留めていたのか、村に達した触は、それぞれの構成員に周知されたのか否かなどを明らかにするとともに、その作業を通して新たな近世支配論を構築する。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

随時、近世支配に関する必読文献を紹介するので、それを読んでおくこと。

[授業計画]

1. 課題と方法
2. 触の概念
3. 支配機関による触の発出1
4. 支配機関による触の発出2
5. 村に達した触状の比較検討—領分触の場合—1
6. 村に達した触状の比較検討—領分触の場合—2
7. 村に達した触状の比較検討—広域触の場合—1
8. 村に達した触状の比較検討—広域触の場合—2
9. 村政と「触の書き留め」行為1
10. 村政と「触の書き留め」行為2
11. 村政と「触の書き留め」行為3
12. 触留帳論1
13. 触留帳論2
14. 触留帳論3
15. 講義のまとめ

[成績評価方法]

期末試験

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]

なし

[参考書(ISBN)]

『近世広域支配の研究』 著者名:村田路人 出版社:大阪大学出版会 (ISBN4-87259-015-5)

『近世畿内近国支配論』 著者名:村田路人 出版社:塙書房 (ISBN978-4-8273-1302-4)

科目名	日本史学特論Ⅳa	前期	2 単位
サブタイトル	近現代日本の軍隊と都市地域社会		
担当者	松下 孝昭		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 近年日本史学界において盛んになりつつある軍隊と地域社会との関わりについて、主として明治期を中心に、軍隊の誘致によって都市形成を図ろうとしたいくつかの都市について考察を加え、近代日本の特質に迫る講義を行う。論拠となる史料の読解を中心に据えて、史料を基にした実証の能力が養成されることを目標とする。			
[授業概要] 軍隊と地域社会との関わりについて、旭川・弘前・豊橋など典型的な「軍都」の事例を検討しつつ、そこでの都市形成と市民のありかたについて考えていく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 国立公文書館・アジア歴史資料センターなど近現代史料の原本を閲覧できるサイトが増えているので、各自で頻繁にアクセスする姿勢が求められる。			
[授業計画] 1. 日本近現代史における軍隊をめぐる研究動向 2. 近代史料の特質と所在 3. 近代史料の解読の実際 4. 明治期の軍隊と地域社会(1) 5. 明治期の軍隊と地域社会(2) 6. 日清戦後の軍隊誘致運動(1) 7. 日清戦後の軍隊誘致運動(2) 8. 日清戦後の軍隊誘致運動(3) 9. 中間的なまとめ 10. 日露戦争と地域社会 11. 日露戦後の軍隊誘致運動(1) 12. 日露戦後の軍隊誘致運動(2) 13. 日露戦後の軍隊誘致運動(3) 14. 戦後の自衛隊誘致運動をめぐって 15. 全体のまとめ			
[成績評価方法] 受講状況と史料読解能力の向上を見定めたうえで、最終的には試験によって評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	日本史学特論Ⅳb	後期	2 単位
サブタイトル	近代日本における軍隊と都市地域住民		
担当者	松下 孝昭		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 前期と同じく、軍隊の立地がもたらす地域社会への影響について、史料の読解を含めながら講義する。史料をもとに論証を積み重ね、自己の論理を固めていくという研究姿勢が伝わるのがこの講義の目標である。			
[授業概要] 前期に続き、軍隊が立地した都市における市民の意識や都市形成の特質を講じる。後期は特に都市の形成の側面に焦点をあて、軍隊が立地したことで、鉄道・道路・水道・商店・遊廓といった都市インフラの構築がいかに進んだかを考察する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 日本近現代史の史料に親しみ、積極的に活用して論証しようとする姿勢を持つておくことが重要である。			
[授業計画] 1. 都市と軍隊をめぐる研究動向 2. 都市史研究の実際 3. 近代史料の特質と所在 4. 軍隊の立地と鉄道(1) 5. 軍隊の立地と鉄道(2) 6. 都市インフラとしての水道 7. 軍用水道の敷設 8. 軍隊の立地と水道 9. 中間的なまとめ 10. 営門前の商店街の繁栄 11. 軍隊の御用商人 12. 軍隊の立地と遊廓(1) 13. 軍隊の立地と遊廓(2) 14. 軍隊の立地と遊廓(3) 15. 総括的なまとめ			
[成績評価方法] 受講状況と理解力の向上を見定めたうえ、論述式の試験を実施して評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	日本史学特論Ⅴa	前期	2 単位
サブタイトル	ヤマト政権の動向		
担当者	寺沢 知子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 4世紀におけるヤマト政権の政策を、考古資料による詳細な分析によって導き出した古墳の動向によって、多角的に研究し、東アジアの情勢との関係を理解できるように指導する。			
[授業概要] 4世紀における考古資料、特に古墳の多様な動向が、ヤマト政権の政策とどのようにかかわったのかについて検証していく。特に、政権の中核豪族について、その具体像を分析するとともに、文献史料との整合性を探る手法を論じる。留意事項:関連する遺跡見学なども実施する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 指示した講義内容にかかわる個別研究論文にあたること。さらに、問題点を事前に検討してくること。			
[授業計画] 【全て遠隔授業】 1. 古墳時代の連続・不連続性について 2. 時期幅を持つ古墳の属性の問題 3. 3世紀後半の古墳動向 4. 4世紀とはどのような時代か 6. 倭系新威信財の出現 7. 前方後方墳の動向① 8. 前方後方墳の動向② 9. 女性首長の変容① 10. 女性首長の変容② 11. 円墳の動向① 13. 円墳の動向② 14. 墳形からみた政権動向 15. まとめ			
[成績評価方法] 講義中の課題の提出物および試験			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	日本史学特論Ⅴb	後期	2 単位
サブタイトル	政権交替と地域首長		
担当者	寺沢 知子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 4世紀後半におけるヤマト政権の政策を、考古資料による詳細な分析によって導き出した古墳の動向によって、多角的に研究できるように指導する。			
[授業概要] 政権交替の変化が、地方の盟主古墳の動向や系譜にどのように反映しているかを検証していく。それをふまえて4世紀後半の国内政策と対外政策を具体化していく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 講義に関連した論文を事前に研究し、問題点を抽出してくること。			
[授業計画] 1. 政権交替について① 2. 政権交替について② 3. 首長墓の系譜と威信財・乙訓の動向① 4. 首長墓の系譜と威信財・乙訓の動向② 5. 首長墓の系譜と威信財・乙訓の動向③ 6. 古墳属性の拡散とその背景① 7. 古墳属性の拡散とその背景② 8. 古墳属性の拡散とその背景③ 9. 古代の交通路と古墳の分布 10. 4世紀後半の国内政策① 11. 4世紀後半の国内政策② 12. 4世紀後半の対外政策① 13. 4世紀後半の対外政策② 14. 古墳の諸様相と政権動向 15. まとめ			
[成績評価方法] 講義中の課題の提出物および試験			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし 著者名:ない			
[参考書(ISBN)] 適宜指示する			

科目名	日本民俗学演習a	前期	2 単位
サブタイトル	『古事記』を読む(1)		
担当者	川森 博司		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 『古事記』の本文を精読することにより、日本古代の伝承の特質をつかむ。			
[授業概要] 『古事記』の本文を精読しながら、その歴史・文化的背景を考察していく。あわせて、国外の神話伝承との比較検討もおこない、日本文化の特質を考えていく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 教科書にもとづいて予習・復習をすること。			
[授業計画] 1. 導入 2. 天地初発 3. 島生み・神生み 4. 黄泉の国往還 5. 三貴子の誕生 6. スサオヲの追放 7. アマテラスの武装 8. ウケヒによる子生み 9. スサノヲの乱暴 10. 天の岩屋ごもり 11. 五穀の起源 12. 八岐大蛇退治 13. スサノヲとクシナダヒメ 14. オホナムチの登場 15. まとめ			
[成績評価方法] 授業における学習態度(70%)および課題レポート(30%)によって評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 『古事記』(岩波文庫) 著者名:倉野憲司(校注) 出版社:講談社 (978-4003000113)			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	日本民俗学演習b	後期	2 単位
サブタイトル	『古事記』を読む（2）		
担当者	川森 博司		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 『古事記』の本文を精読することにより、日本神話の構造と歴史的背景を理解する。			
[授業概要] 『古事記』の本文を精読しながら、その歴史・文化的背景を考察していく。あわせて、国外の神話伝承との比較検討もおこない、日本文化の特質を考えていく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 教科書にもとづいて予習・復習をすること。			
[授業計画] 1. 『古事記』の構想 2. オホナムチの根の堅州国訪問 3. 葦原の中つ国の統一 4. ヤチホコのヌナカワヒメ求婚 5. スセリビメの嫉妬 6. オホクニヌシの神統譜 7. オホクニヌシとスクナビコナ 8. オホトシの神統譜 9. アメノワカヒコ 10. アジスキタカネヒコ 11. タケミカヅチ 12. コトシロヌシ 13. タケミナカタ 14. 出雲神話とは何か 15. まとめ			
[成績評価方法] 授業における学習態度(70%)および課題レポート(30%)によって評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 『古事記』(岩波文庫) 著者名:倉野憲司(校注) 出版社:岩波書店 (978-4003000113)			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	日本民俗学特論a	前期	2 単位
サブタイトル	神話伝承の民俗学（1）		
担当者	川森 博司		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 神話伝承の考察をととして、日本文化の基底にあるものの特質を把握する。			
[授業概要] 神話伝承は、世界の各地で暮らしてきた人々の思考様式に大きな影響を与えている。逆に言えば、神話伝承を学ぶことによって、各地の文化の基底にあるものを我々は知ることができる。 この授業では、『古事記』を中心に、日本の神話伝承を比較の視点を交えながら考察していく。創世神話の語られ方、女神の役割など検討しながら、それぞれの神話が持つ意味を民俗学の視点から分析していく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 教科書にもとづいて予習・復習をすること。			
[授業計画] 1. 神話とは何か 2. 『古事記』と『日本書記』 3. 創世神話(1) 4. 創世神話(2) 5. イザナキとイザナミ(1) 6. イザナキとイザナミ(2) 7. 冥界探訪(1) 8. 冥界探訪(2) 9. 三貴子の誕生(1) 10.三貴子の誕生(2) 11. アマテラスとスサノヲ(1) 12. アマテラスとスサノヲ(2) 13. 女神の役割(1) 14. 女神の役割(2) 15. まとめ			
[成績評価方法] 授業における学習態度(50%)および筆記試験(50%)によって評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 『神話と日本人の心<<物語と日本人の心>>コレクションⅢ』(岩波現代文庫) 著者名:河合隼雄 出版社:岩波書店 (978-4006003463))			
[参考書(ISBN)] 『古事記』(岩波文庫) 著者名:倉野憲司(校注) 出版社:岩波書店 (978-4003000113)			

科目名	日本民俗学特論b	後期	2 単位
サブタイトル	神話伝承の民俗学(2)		
担当者	川森 博司		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 神話伝承の考察をととして、現代人にとっての神話の役割(その必要性和問題点)を自分なりに捉える。			
[授業概要] 神話伝承は、世界の各地で暮らしてきた人々の思考様式に大きな影響を与えている。逆に言えば、神話伝承を学ぶことによって、各地の文化の基底にあるものを我々は知ることができる。 この授業では、『古事記』を中心に、日本の神話伝承を比較の視点を交えながら考察していく。トリックスターの役割、出雲神話の意味、天孫降臨の伝承などを取り上げながら、それぞれの神話が持つ意味を民俗学の視点から検討し、現代に生きる我々にとって神話がどのような意味を持つのかを考えていきたい。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 教科書にもとづいて予習・復習をすること。			
[授業計画] 1. 神話研究の方法 2. トリックスターとしてのスサノヲ(1) 3. トリックスターとしてのスサノヲ(2) 4. オオクニヌシと国造り(1) 5. オオクニヌシと国造り(2) 6. 出雲神話の意味(1) 7. 出雲神話の意味(2) 8. 天孫降臨(1) 9. 天孫降臨(2) 10. 海幸と山幸(1) 11. 海幸と山幸(2) 12. 日本神話の構造(1) 13. 日本神話の構造(2) 14. 神話と現代社会 15. まとめ			
[成績評価方法] 授業における学習態度(50%)および筆記試験(50%)によって評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 『神話と日本人の心<<物語と日本人の心>>コレクションⅢ』(岩波現代文庫) 著者名:河合隼雄 出版社:岩波書店 (978-4006003463)			
[参考書(ISBN)] 『古事記』(岩波文庫) 著者名:倉野憲司(校注) 出版社:岩波書店 (978-4003000113)			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	川森 博司		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 学位論文の作成			
[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。			
[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。			
[成績評価方法] 総合評価による。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	鈴木 宏節		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて自発的に史資料の収集を行い、目指すべき課題の解決に向けて準備を整えておくこと。 [授業計画] 学位論文の作成進度に合わせて15回の授業計画を立てる。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] 必要に応じて紹介する。			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	寺沢 知子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 学位論文の作成			
[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。			
[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。			
[成績評価方法] 総合評価による。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル	論文作成に向けて		
担当者	松下 孝昭		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 晋次		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 各自の学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。 [成績評価方法] 論文の進展度・内容および受講態度を総合して評価する。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし 著者名:― 出版社:― (―) [参考書(ISBN)] なし 著者名:― 出版社:― (―)			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉村 真美		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習a(日本史学)	前期	2 単位
サブタイトル	修士論文の作成を目指して		
担当者	村田 路人		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 修士論文の作成			
[授業概要] 修士論文の作成を目指し、受講生各自のテーマに関連する論文や史料の講読と、テーマについての研究報告を適宜組み合わせた研究指導を行う。授業計画は、受講生それぞれの研究の進捗状況に応じ、柔軟に立てる。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 修士論文の作成に向け、論文テーマに関わる研究史の整理や史料収集を行っておくこと。			
[授業計画] 1. 授業の進め方 2. 受講生による報告1 3. 受講生による報告2 4. 受講生による報告3 5. 受講生による報告4 6. 受講生による報告5 7. 受講生による報告6 8. 受講生による報告7 9. 受講生による報告8 10. 受講生による報告9 11. 受講生による報告10 12. 受講生による報告11 13. 受講生による報告12 14. 受講生による報告13 15. 受講生による報告14			
[成績評価方法] 総合評価による。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	川森 博司		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 学位論文の作成			
[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。			
[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。			
[成績評価方法] 総合評価による。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	鈴木 宏節		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 学位論文の作成			
[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向け史資料収集を行い、史料批判の準備をしておくこと。			
[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。			
[成績評価方法] 演習の準備や提出物など総合評価による。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	寺沢 知子		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] 適宜指示する			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	松下 孝昭		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 学位論文の作成			
[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。			
[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。			
[成績評価方法] 総合評価による。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 晋次		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 各自の学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。 [成績評価方法] 完成した論文の内容および受講態度を総合して評価する。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし 著者名:― 出版社:― (―) [参考書(ISBN)] なし 著者名:― 出版社:― (―)			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉村 真美		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし [参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習b(日本史学)	後期	2 単位
サブタイトル	修士論文の作成を目指して		
担当者	村田 路人		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 修士論文の作成			
[授業概要] 修士論文の作成を目指し、受講生各自のテーマに関連する論文や史料の講読と、テーマについての研究報告を適宜組み合わせた研究指導を行う。授業計画は、受講生それぞれの研究の進捗状況に応じ、柔軟に立てる。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 修士論文の作成に向け、論文テーマに関わる研究史の整理や史料収集を行っておくこと。			
[授業計画] 1. 受講生による報告1 2. 受講生による報告2 3. 受講生による報告3 4. 受講生による報告4 5. 受講生による報告5 6. 受講生による報告6 7. 受講生による報告7 8. 受講生による報告8 9. 受講生による報告9 10. 受講生による報告10 11. 受講生による報告11 12. 受講生による報告12 13. 受講生による報告13 14. 受講生による報告14 15. 受講生による報告15			
[成績評価方法] 総合評価による。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

教育学専攻

科目名	学位論文(教育学)	通年	0 単位
サブタイトル			
担当者	小原 依子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 学位論文の作成			
[授業概要] 学位論文では、各自の研究テーマについて、まず文献研究を通して、先行研究や最新の知見を理解し、論文指導演習で発表・ディスカッションを重ねていく。そして各自が研究するテーマ設定とその研究手法を明確にし、結果を導き出し、専門性に基づく考察を行っていく。その際、関連の学会等での成果報告と評価を得ながら、各自の研究目的についてのさらなる振り返りと考察を深め、博士学位に到達する独創性のある心理学論文として完成させる。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集、実験および調査、事例検討を行い、目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。			
[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、授業計画を立てる。			
[成績評価方法] 授業中の課題(10%)、研究発表(20%)、学位論文(70%)等を総合的に判断して評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし。授業時に随時配布する。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)			
[参考書(ISBN)] なし。授業内で随時紹介する。 著者名:なし。 出版社:なし。(なし。)			

科目名	教育学演習Ⅱa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	中村 隆文		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 教育社会史とは、社会史において現れた事象を教育学的に再考しようとする試みである。それぞれのテーマごとに毎回レジュメを提出し、そのテーマを検討していく。その後、各自の論文としてそれらを結実させる。			
[授業概要] 目標にしたがった試みを、学生それぞれの発表から導きだし、論文作成についての基本的な考え方を指導する。なお、指導の際、必要となる講読資料については、授業中に適宜指示する。また論文体裁などについては、筆者の著書『「視線」からみた日本近代』（京都大学出版会）を参考とするので、各自入手しておくこと。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 自分自身の論文テーマについての基本的な視座を確認し、この半期をいかに研究するのかという目的意識を持って、復習と予習に努めていただきたい。			
[授業計画] 【全て遠隔授業】 1. オリエンテーションと研究方法について 2. 前期発表者の決定と研究方法の検討 3. 発表1 4. 発表2 5. 発表3 6. 発表4 7. 発表5 8. 中間検討会－論文作成における方向性の再検討 9. 発表6 10. 発表7 11. 発表8 12. 発表9 13. 発表10 14. 総括検討会 15. 総合評価と後期への展望			
[成績評価方法] 口頭発表とレポートで評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし 著者名:なし 出版社:なし			

科目名	教育学演習Ⅱb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	中村 隆文		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 教育社会史の論文作成における実際を各自の研究を基にして実践する。教育を構造的に把握するには、歴史の枠組みや、社会の枠組みの多様な要素を認識し、その中で自らの思考を相対化自立化していかなければならない。そうして形成された問題意識があつてこそ、我々の周囲のあらゆる事象を、自らの問題関心として検討可能となるのである。特に前期の学生には、各自の修士論文作成を目指し、卒論から継続した課題ないしは新たな課題への積極的な取組みを期待したい。			
[授業概要] 目標にしたがった試みを、学生それぞれの発表から導きだし、論文作成についての基本的な考え方を指導する。なお、指導の際、必要となる講読資料については、授業中に適宜指示する。また論文体裁などについては、以下の図書を参考とするので、各自入手しておくこと。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 自分自身の論文テーマについての基本的な視座を確認し、この半期をいかに研究するのかという目的意識を持って、復習と予習に努めていただきたい。			
[授業計画] 1. 夏期休暇中の研究総括と今後の方向性について 2. 後期発表者の決定と研究方法の検討 3. 発表1 4. 発表2 5. 発表3 6. 発表4 7. 発表5 8. 中間検討会－論文作成における方向性の再検討 9. 発表6 10. 発表7 11. 発表8 12. 発表9 13. 発表10 14. 総括検討会 15. 総合評価と来年度への展望			
[成績評価方法] 口頭発表とレポートで評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし (なし))			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	教育学演習Ⅲa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	堀江 祐爾		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 国語科教育の研究を行うための基本的な力を身につけるために、先行論文の読み合わせとそれに関する討議を行う。先行研究を批判的に読むことを通して、自分自身の修士論文作成についてしっかりと考えて欲しい。			
[授業概要] 国語科教育における3つの領域、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する先行研究の読み合わせと討議を中心に展開する。実際には、受講生の研究テーマなどに合わせて柔軟に展開していく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 毎回の授業内容を復習して理解を確かなものにするとともに、資料や教材をよく読み込んでどのような授業づくりをおこなうか、考えておくこと。各回、予習復習合わせて2時間程度。			
[授業計画] 1. オリエンテーション 興味・関心調査 2. 「話すこと・聞くこと」に関する先行研究の読み合わせと討議(1) 3. 「話すこと・聞くこと」に関する先行研究の読み合わせと討議(2) 4. 「話すこと・聞くこと」に関する先行研究の読み合わせと討議(3) 5. 「書くこと」に関する先行研究の読み合わせと討議(1) 6. 「書くこと」に関する先行研究の読み合わせと討議(2) 7. 「書くこと」に関する先行研究の読み合わせと討議(3) 8. 「書くこと」に関する先行研究の読み合わせと討議(4) 9. 「読むこと」に関する先行研究の読み合わせと討議(1) 10. 「読むこと」に関する先行研究の読み合わせと討議(2) 11. 「読むこと」に関する先行研究の読み合わせと討議(3) 12. 「読むこと」に関する先行研究の読み合わせと討議(4) 13. その他の要素に関する先行研究の読み合わせと討議(1) 14. その他の要素に関する先行研究の読み合わせと討議(2) 15. まとめ この講義において身につけた力の振り返り ※受講生の研究テーマなどに合わせて柔軟に展開していく。			
[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)課題・レポートについては印刷配布、またはmanabaやインターネットなどを通してフィードバックする。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし 出版社： ()			

科目名	教育学演習Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	堀江 祐爾		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 国語科における「学力評価」について、理論的な面、実践的な面から、知見を深めることをめざす。自分の授業実践の意味を自分の言葉によって語るできるようになって欲しい。			
[授業概要] まず、自分自身の国語科における「学力評価」に対する認識を目に見える形にすることから始める。授業実践の意味について考えるためにさまざまな先行理論を学ぶ。さらに授業実践ビデオから授業実践における工夫を学ぶ。項目ごとにレポートと討議を重ねていく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 毎回の授業内容を復習して理解を確かなものにするとともに、資料や教材をよく読み込んでどのような授業づくりをおこなうか、考えておくこと。各回、予習復習合わせて2時間程度。			
[授業計画] 1. オリエンテーション 興味・関心調査 2. 国語科における「学力評価」についての自分の考え 3. 〈時期〉に関するレポートと討議 4. 〈期間〉に関するレポートと討議 5. 〈個別化〉に関するレポートと討議 6. 〈感性〉に関するレポートと討議 7. 〈経験〉に関するレポートと討議 8. 〈観察〉に関するレポートと討議 9. 〈言語活動〉に関するレポートと討議 10. 〈自己評価〉に関するレポートと討議 11. 〈他者評価〉に関するレポートと討議 12. 〈フィードバック〉に関するレポートと討議 13. 〈評価から評定へ〉に関するレポートと討議 14. 〈その他の要素〉に関するレポートと討議 15. まとめ この講義において身につけた力の振り返り ※受講生の研究テーマなどに合わせて柔軟に展開していく。			
[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)課題・レポートについては印刷配布、またはmanabaやインターネットなどを通してフィードバックする。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	教育学演習Ⅳa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	三宅 茂夫		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 生涯にわたり、子どもが健全な人間として生きるために必要にして十分な学習課題や、初等教育の基礎段階である就学前教育における指導の在り方も含めて理論的考察を加え、これらに携わる者としてふさわしい幅広い角度からの専門性を修得させることを目的とする。この演習の中で得られた知識や技法を基に、就学前教育教員としての理論に支えられた実践的職能の一層の形成が期待される。 なお、本科目は専修免許の課程認定科目であるため、教職課程該当者には履修が必要となる。			
[授業概要] 多様なイデオロギーに基づく就学前カリキュラムの分析を通して、幼児期の子どもの成長・発達を見すえたカリキュラムの在り方について考察する。また、保育改善のための資質形成の観点から、「教授－学習」過程に関する理論や教育心理学のアプローチによる授業研究法を視野に入れながら検討し、演習する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の講義内容を復習し理解して、次回の講義(研究・課題)の予習をしておくこと。日常的に講義(研究・課題)に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学び(研究・課題)を進めること。			
[授業計画] 【全て遠隔授業】 1. カリキュラム開発の理論と方法 2. カリキュラム評価と保育改善 3. 保育評価と保育改善 4. カリキュラムの事例分析① 5. カリキュラムの事例分析② 6. カリキュラムの事例分析③ 7. カリキュラムの事例分析④ 8. 教育方法研究の考え方・進め方 9. 授業研究法の理論と実際① 10. 授業研究法の理論と実際② 11. 授業研究法の理論と実際③ 12. 保育研究の実際① 13. 保育研究の実際② 14. 保育研究の実際③ 15. まとめ			
[成績評価方法] 課題研究の成果(80%)、発表(20%)を総合して行う。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 後日連絡する。			
[参考書(ISBN)] 必要に応じて、文献の紹介や資料の配付を行う。			

科目名	教育学演習Ⅳb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	三宅 茂夫		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 近代幼児教育思想をふまえながら、現代の日本の保育・幼児教育に多大な影響を与えた倉橋惣三の教育に関する考え方について究明する。また、彼の考えを理解することで、現代の子どもを取り巻く様々な問題を解決するための知見を得たい。 なお、本科目は専修免許の課程認定科目であるため、教職課程該当者には履修が必要となる。			
[授業概要] 本演習では、倉橋惣三の著作を講読する。テキストは倉橋惣三選集のなかから、その都度受講者と相談し、受講者の研究スタンスなどを考慮に入れて選択する。授業は受講者の文献研究の内容や趣旨についての報告を中心に、問題提起、ディスカッションによって理解を深める。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の講義内容を復習し理解して、次回の講義(研究・課題)の予習をしておくこと。日常的に講義(研究・課題)に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学び(研究・課題)を進めること。			
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. 講読とディスカッション① 3. 講読とディスカッション② 4. 講読とディスカッション③ 5. 講読とディスカッション④ 6. 講読とディスカッション⑤ 7. 講読とディスカッション⑥ 8. 講読とディスカッション⑦ 9. 講読とディスカッション⑧ 10. 講読とディスカッション⑨ 11. 講読とディスカッション⑩ 12. 講読とディスカッション⑪ 13. 講読とディスカッション⑫ 14. 講読とディスカッション⑬ 15. まとめ			
[成績評価方法] 課題研究の成果(80%)、発表(20%)を総合して行う。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 後日連絡する。			
[参考書(ISBN)] 必要に応じて、文献の紹介や資料の配付を行う。			

科目名	教育学特論Ⅱa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	中村 隆文		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 教育社会史とは、社会史において現れた事象を教育学的に再考しようとする試みである。今年度は前年度に引き続き、焦点を食育にあて、教育現場における食育の文化的背景を分析し、食育の教育的意義を検討する。			
[授業概要] 教育学特論は、教員の研究の最前線を学生が直接体験することによって、生きた学問から刺激を受けかつ学生自らの研究を深化させることを主眼とする科目である。そのため学生の積極的な参加が要請される。前期では、食育に関する基本的文献を取り上げ多角的に考察する。なお進度については適宜決定する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 研究の出発にあたり、それぞれの食育に関する興味ある文献を購読すること。また予習すべき文献は追って指示する。			
[授業計画] 【全て遠隔授業】 1. 食育基本文献の検討と考察1. 2. 食育基本文献の検討と考察2. 3. 食育基本文献の検討と考察3. 4. 食育基本文献の検討と考察4. 5. 食育基本文献の検討と考察5. 6. 食育基本文献の検討と考察6. 7. 食育基本文献の検討と考察7. 8. 食育基本文献の検討と考察8. 9. 食育基本文献の検討と考察9. 10. 食育基本文献の検討と考察10. 11. 食育基本文献の検討と考察11. 12. 食育基本文献の検討と考察12. 13. 食育基本文献の検討と考察13. 14. 食育基本文献の検討と考察14. 15. 前期まとめ			
[成績評価方法] 口頭発表とレポートで評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	教育学特論Ⅱb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	中村 隆文		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 教育社会史とは、社会史において現れた事象を教育学的に再考しようとする試みである。今年度は昨年度に引き続き焦点を食育にあて、教育現場に於ける食育の文化的背景を分析し、食育の教育的意義を検討する。			
[授業概要] 教育学特論は、教員の研究の最前線を学生が直接体験することによって、生きた学問から刺激を受けかつ学生自らの研究を深化させることを主眼とする科目である。そのため学生の積極的な参加が要請される。後期では、引き続き食育に関する基本的文献を取り上げ多角的に考察する。なお進度については適宜決定する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前期の復習をしっかりと、食育の文化的背景を検討しておくこと。			
[授業計画] 1. 食育基本文献2の検討と考察1. 2. 食育基本文献2の検討と考察2. 3. 食育基本文献2の検討と考察3. 4. 食育基本文献2の検討と考察4. 5. 食育基本文献2の検討と考察5. 6. 食育基本文献2の検討と考察6. 7. 食育基本文献2の検討と考察7. 8. 食育基本文献2の検討と考察8. 9. 食育基本文献2の検討と考察9. 10. 食育基本文献2の検討と考察10. 11. 食育基本文献2の検討と考察11. 12. 食育基本文献2の検討と考察12. 13. 食育基本文献2の検討と考察13. 14. 食育基本文献2の検討と考察14. 15. 総まとめ			
[成績評価方法] 口頭発表とレポートで評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	教育学特論Ⅲa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	堀江 祐爾		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 「読むこと」の学習指導について、理論的な面、実践的な面から、知見を深めることをめざす。自分の授業実践の意味を自分の言葉によって語るできるようになって欲しい。			
[授業概要] 自分自身の「読むこと」に関する認識を目に見える形にする。その意味について考えるためにさまざまな先行理論を学ぶ。さらに授業実践ビデオから授業実践における工夫を学ぶ。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 毎回の授業内容を復習して理解を確かなものにするとともに、資料や教材をよく読み込んでどのような授業づくりをおこなうか、考えておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。			
[授業計画] 1. オリエンテーション 興味・関心調査 2. ある文章をく読むとは、「何を」「どういう方法で」おこなうことであるか。 3. 2を踏まえた討議(1) 4. 2を踏まえた討議(2) 5. 学力調査における読解―問いの解析― 6. 学力調査の基礎理論 7. 学習指導要領が求める読解・読書指導 8. 全国学力・学習状況調査の分析 9. 物語教材の教材研究の方法と授業実践(1) 10. 物語教材の教材研究の方法と授業実践(2) 11. 物語教材の教材研究の方法と授業実践(3) 12. 説明的文章教材の教材研究の方法と授業実践(1) 13. 説明的文章教材の教材研究の方法と授業実践(2) 14. 説明的文章教材の教材研究の方法と授業実践(3) 15. まとめ この講義において身につけた力の振り返り ※受講生の研究テーマなどに合わせて柔軟に展開していく。			
[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)課題・レポートについては印刷配布、またはmanabaやインターネットなどを通してフィードバックする。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書 (ISBN)] なし			
[参考書 (ISBN)] なし 著者名: 出版社: ()			

科目名	教育学特論Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	堀江 祐爾		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 「書くこと」について、理論的な面、実践的な面から、知見を深めることをめざす。自分の授業実践の意味を自分の言葉によって語ることができるようになって欲しい。			
[授業概要] まず、自分自身の「書くこと」に対する認識を目に見える形にすることから始める。授業実践の意味について考えるためにさまざまな先行理論を学ぶ。さらに授業実践ビデオから授業実践における工夫を学ぶ。具体的な教材を取り上げ、教材研究から授業実践へと展開する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 毎回の授業内容を復習して理解を確かなものにするとともに、資料や教材をよく読み込んでどのような授業づくりをおこなうか、考えておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。			
[授業計画] 1. オリエンテーション 興味・関心調査 2. ある文章を「書く」とは、「何を」「どういう方法で」おこなうことであるか。 3. 2を踏まえた討議(1) 4. 2を踏まえた討議(2) 5. 書くことの基礎理論(1) 6. 書くことの基礎理論(2) 7. 学習指導要領が求める書くことの指導 8. 全国学力・学習状況調査の分析 9. 書くことの教材研究の方法と授業実践(1) 10. 書くことの教材研究の方法と授業実践(2) 11. 書くことの教材研究の方法と授業実践(3) 12. 書くことと言語活動との関係(1) 13. 書くことと言語活動との関係(2) 14. 書くことと言語活動との関係(3) 15. まとめ この講義において身につけた力の振り返り ※受講生の研究テーマなどに合わせて柔軟に展開していく。			
[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)課題・レポートについては印刷配布、またはmanabaやインターネットなどを通してフィードバックする。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	教育学特論Ⅳa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	三宅 茂夫		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 初等教育の基礎段階である就学前教育におけるカリキュラムに関して、歴史的・政策的、実践的・開発的な観点から理論的考察を加えるなかで、教育実践者として幅広い高度な専門性を修得させることを目的とする。この講義の中で得た知識や技法を基に、就学前教育に関係する者として、理論に支えられた実践的職能のさらなる形成を目指す。 なお、本科目は専修免許の課程認定科目であるため、教職課程該当者には履修が必要となる。			
[授業概要] カリキュラム研究の方向性を示しつつ、就学前教育カリキュラムの成立過程における多様な力学を分析することで、児童中心主義による望ましいカリキュラム開発の視座について検討する。さらに、そこから導き出されるカリキュラム実践者として必要となる知識や技能を模索することで、具体的な職能の形成につなげていく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の講義内容を復習し理解して、次回の講義(研究・課題)の予習をしておくこと。日常的に講義(研究・課題)に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学び(研究・課題)を進めること。			
[授業計画] 1. オリエンテーション 2. カリキュラム研究の歴史的研究 3. 就学前教育カリキュラムの多様性 4. 就学前教育カリキュラムの責任性 5. カリキュラムのイデオロギー性① 6. カリキュラムのイデオロギー性② 7. ナショナル・カリキュラムの変遷と社会背景① 8. ナショナル・カリキュラムの変遷と社会背景② 9. タキシノミーとわが国の就学前教育における教育目標分析① 10. タキシノミーとわが国の就学前教育における教育目標分析② 11. 指導計画へのイデオロギー照射とフォーム① 12. 指導計画へのイデオロギー照射とフォーム② 13. カリキュラム開発の方策と視座① 14. カリキュラム開発の方策と視座② 15. まとめ			
[成績評価方法] 試験(80%)、課題及び発表(20%)を総合して行う。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 後日連絡する。			
[参考書(ISBN)] 必要に応じて、文献の紹介や資料の配付を行う。			

科目名	教育学特論Ⅳb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	三宅 茂夫		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 本授業では、今日の保育や幼児教育につながる教育思想を学び、研究することを通して、読み取り、感じ取り、自ら考えながら、今日の激動の時代において新たな教育実践を創造していくための教養と洞察力・感性の育成を目指す。 また、幼児教育思想の系譜を検討し、子育てや保育、幼児の教育をめぐる価値意識や実践を洗い出すとともに、それらを醸成した歴史的・社会的な要因についても追求していく。受講者の教育観が洗練され、子どものふさわしい育ちを保障する認識図式が柔軟かつ強靱、複眼的に形成されていくことを目標とする。 なお、本科目は専修免許の課程認定科目であるため、教職課程該当者には履修が必要となる。			
[授業概要] 演習・講義形式をとりながら、子どもの視点に立った保育・幼児教育の源流となる西洋や日本の幼児教育思想を概観し、今日の保育・教育実践を支える考え方について考察していく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の講義内容を復習し理解して、次回の講義(研究・課題)の予習をしておくこと。日常的に講義(研究・課題)に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学び(研究・課題)を進めること。			
[授業計画] 1. なぜ教育思想史を学ぶのか 2. 古代ギリシャ・ローマ 3. 中世ヨーロッパ 4. コメニウス 5. ロック 6. ルソー 7. ペスタロッチ 8. オーエン 9. フレーベル 10. デューイ 11. モンテッソーリ 12. シュタイナー 13. 倉橋惣三 14. 和田実 15. まとめ			
[成績評価方法] 課題研究の成果(80%)、発表(20%)を総合して行う。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 後日連絡する。			
[参考書(ISBN)] 必要に応じて、文献の紹介や資料の配付を行う。			

科目名	教育心理学演習 I a	前期	2 単位
サブタイトル	認知発達心理学		
担当者	中島 實		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 認知発達に関する心理学分野での代表的な理論や知見を学び、専門的な理解を深めることを目的とする。			
[授業概要] 概念、推論、記憶、メタ認知、演繹推論、発達の変化の要因などの認知発達心理学の各領域やテーマの基本的知見や理論となる研究論文を順にレポートし、議論によって理解を深める。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容および該当する教科書(プリント)の関連箇所を復習し、次回の予定内容に関連する教科書の該当箇所を予習すること。 各回、予習復習合わせて4時間程度			
[授業計画] 1. 概要説明 2. 乳児期の認知(1) 3. 乳児期の認知(2) 4. 概念発達(1) 5. 概念発達(2) 6. 因果推論の発達(1) 7. 因果推論の発達(2) 8. 記憶の発達(1) 9. 記憶の発達(2) 10. 記憶方略とメタ認知(1) 11. 記憶方略とメタ認知(2) 12. 論理的推論の発達(1) 13. 論理的推論の発達(2) 14. 作業記憶容量の発達 15. まとめ			
[成績評価方法] 毎回の質疑、討議の様子によって評価する フィードバックは授業時に適宜行う			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] プリント配布 著者名: × 出版社: × (×)			
[参考書(ISBN)] なし 著者名: × 出版社: × (×)			

科目名	教育心理学演習 I b	後期	2 単位
サブタイトル	心理学データ処理法		
担当者	中島 實		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 教育心理学の研究および教育評価や教育心理学分野での資料整理において必要となるさまざまな統計的データ処理の方法を、事例に基づきながら実践的に学ぶことを目的とする。			
[授業概要] 基本的方法を学んだあと、主要な多変量データ解析法を中心に、具体的事例を通して学び、手法を習得していく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容および該当する教科書(プリント)の関連箇所を復習し、次回までに提出予定の演習課題を仕上げる。こと。 各回、予習復習合わせて2時間程度			
[授業計画] 1. 概要説明 2. 基本的な統計法(1)記述統計 3. 基本的な統計法(2)推測統計 4. クラスター分析(1) 5. クラスター分析(2) 6. 主成分分析(1) 7. 主成分分析(2) 8. 重回帰分析(1) 9. 重回帰分析(2) 10. 因子分析(1) 11. 因子分析(2) 12. パス解析 13. 数量化理論(1) 14. 数量化理論(2) 15. まとめ			
[成績評価方法] 課題提出によって評価する フィードバックは成績問合せに対応して行う。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] プリント 著者名:x 出版社:x (×)			
[参考書(ISBN)] なし 著者名:x 出版社:x (×)			

科目名	教育心理学特論 I a	前期	2 単位
サブタイトル	意思決定の心理学		
担当者	中島 實		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 人間が物事をどのように認識しているか、どのように判断しているか、その結果としてどのようなことを思うかという「認知のしくみや特性」に関する理解を深めることを目的とする。			
[授業概要] 特に「リスク判断と意思決定」に焦点を当て、認知心理学や社会心理学をはじめとする、学際的分野での研究結果について演習形式で吟味検討していく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容および該当する教科書(プリント)の関連箇所を復習し、次回の予定内容に関連する教科書の該当箇所を予習すること。 各回、予習復習合わせて4時間程度。			
[授業計画] 1. リスク、意思決定の意味 2. プロスペクト理論(1) 3. プロスペクト理論(2) 4. 代表性ヒューリスティック(1) 5. 代表性ヒューリスティック(2) 6. 利用可能性ヒューリスティック 7. 係留と調整ヒューリスティック 8. 曖昧状況での意思決定(1) 9. 曖昧状況での意思決定(2) 10. 決定後の不協和の解消 11. 行動経済学(1) 12. 行動経済学(2) 13. 集団意思決定(1) 14. 集団意思決定(2) 15. まとめ			
[成績評価方法] 毎回の発表、討議の様子によって評価する フィードバックは授業時に適宜行う			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] プリント配布 著者名: × 出版社: × (×)			
[参考書(ISBN)] なし 著者名: × 出版社: × (×)			

科目名	教育心理学特論 I b	後期	2 単位
サブタイトル	認知発達の研究事例と研究法		
担当者	中島 實		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 心理学の分野で研究を進める際に必要となる作業、技法、論理、統計処理について演習形式で学習することを目的とする。			
[授業概要] 特に認知発達心理学における各分野の実際の研究例をもとにしながら、理論の実証、追試、研究の拡張などのさまざまな研究パターンについて検討を行い、各領域の研究法を知ると共に各自が研究を進めるための考え方、技法を学ぶ。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容および該当する教科書(プリント)の関連箇所を復習し、次回の予定内容に関連する教科書の該当箇所を予習すること。 各回、予習復習合わせて4時間程度			
[授業計画] 1. 概要説明 2. 乳児期の知覚研究 3. 乳児期の注意研究 4. 乳児期のリーチング研究 5. 幼児期の記憶—目撃証言 6. 幼児期の知識構造研究 7. 幼児期の記憶方略研究 8. 子どもの空間表象研究 9. 心像の発達の研究 10. 描画の特徴に関する研究 11. 子どもの数の概念に関する研究 12. 子どものカテゴリと概念に関する研究 13. 心の理論に関する研究(1) 14. 心の理論に関する研究(2) 15. 全体のまとめ			
[成績評価方法] 毎回の発表、討議の様子によって評価する フィードバックは授業時に適宜行う。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] プリント配布 著者名:x 出版社:x (×)			
[参考書(ISBN)] なし 著者名:x 出版社:x (×)			

科目名	臨床心理学演習 I a	前期	2 単位
サブタイトル	心理検査法演習		
担当者	前田 研史		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 臨床心理アセスメントにおいて用いられる心理テストのうち代表的なものについて、その実施方法や解釈技法についての理解を深める。			
[授業概要] 本演習では、とくに投影法と呼ばれる検査に焦点をあて、その施行結果からクライアント理解のためにどのような解釈が可能か具体的に検討する。ここでとりあげる投影法には、ロールシャッハテストやバウムテスト、人物画などの描画法が含まれる。これらのテストに習熟するためにはどのような視点を身につけることが必要か、また、実際にクライアントを援助するために有効なテスト所見とはどのようなものであるか、といったことについて理解を深める。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 演習で学んだテスト法について毎回振り返ることにより、その実際を確認しておくこと。			
[授業計画] 1. 心理テストの種類と特徴 2. 投影法の基礎 3. PFスタディについて;スコアリング 4. PFスタディについて;解釈の実際 5. 描画法;人物画法 6. 描画法;バウムテスト 7. 描画法;その他の描画法 8. ロールシャッハテスト;スコアリング1 9. ロールシャッハテスト;スコアリング2 10. ロールシャッハテスト;スコアリング3 11. ロールシャッハテスト;解釈の実際1 12. ロールシャッハテスト;解釈の実際2 13. その他の投影法 14. アセスメントの実際1 15. アセスメントの実際2			
[成績評価方法] 発表(60%)、討論への参加態度(40%)による			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 授業時に資料を配布する。			
[参考書(ISBN)] 必要に応じて紹介する。			

科目名	臨床心理学演習 I b	後期	2 単位
サブタイトル	発達臨床心理学演習		
担当者	前田 研史		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 本演習では、児童福祉領域における臨床心理援助のあり方を検討し、子どもの生活全体を通して支援するという福祉心理臨床学的視点を習得することを目標とする。			
[授業概要] 子どもの発達上の問題や情緒の問題を具体的にとり上げ、それらの概念と実際の子どもの行動特徴を明らかにしたうえで、臨床心理学的な立場からどのようなアプローチが可能か検討していく。その際、心理療法理論に基づくアプローチと、発達心理学的理解に基づくアプローチとを統合する視点が必要であることを詳述し、援助のあり方を見定めていくために求められる実践的な姿勢について検討する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 毎回学んだ内容について整理し、学部における教育実習などで出会った実際の子どもたちの様子と照らし合わせながら、具体的な理解を深めるように努めること。			
[授業計画] 1. 自閉スペクトラム症;概念 2. 自閉スペクトラム症;援助のあり方 3. 注意欠如/多動症;概念 4. 注意欠如/多動症;援助のあり方 5. 限局性学習症;概念 6. 限局性学習症;援助のあり方 7. 知的能力障がい;概念と援助のあり方 8. 子どもの不安障がい;概念と援助のあり方 9. 子どもと心的外傷;概念と援助のあり方 10. 子ども虐待;概念と現状 11. 子ども虐待;援助のあり方1 12. 子ども虐待;援助のあり方2 13. ひきこもり;その理解と援助のあり方 14. その他の情緒的諸問題と援助のあり方1 15. その他の情緒的諸問題と援助のあり方2			
[成績評価方法] 発表(60%)、討論への参加態度(40%)による			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] 随時紹介する。			

科目名	臨床心理学演習Ⅱa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	小原 依子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 心理療法の中でも特に芸術療法(音楽療法を中心に)に焦点をあて、non-verbal communication のもつ意味を考えながら、近年、様々な領域で求められつつある音楽療法と、その現状及び歴史、対象となる領域などの概論を学ぶ。			
[授業概要] 音楽療法を、音楽を用いた心理療法として捉え、種々の心理療法と比較しながら、その特徴を紹介し、実際のセッション場面を通して検討していく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 心理学や臨床心理学、発達心理学の基本の復習を行いながら、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。授業に関係する社会的動向についても関心をもつこと。各回、予習復習合わせて2時間程度。			
[授業計画] 1. 臨床心理学の全般 2. 様々な心理療法の紹介 1 3. 様々な心理療法の紹介 2 4. 音楽を用いた心理療法 5. 音楽療法の歴史 1 6. 音楽療法の歴史 2 7. 音楽療法の歴史 3 8. 音楽のもつ生理的作用 9. 音楽のもつ心理的作用 10. 音楽のもつ社会的作用 11. 音楽療法の対象領域＜児童＞ 12. 音楽療法の対象領域＜成人＞ 13. 音楽療法の対象領域＜高齢者＞ 14. 演習と体験 15. まとめ			
[成績評価方法] 授業中の課題(20%)、討議(30%)、レポート提出(50%)等を総合的に判断し評価する。 ・授業中の課題、レポート課題は授業内に適宜フィードバックをする。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし。授業時に随時配布する。			
[参考書(ISBN)] なし。授業時に随時紹介する。			

科目名	臨床心理学演習Ⅱb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	小原 依子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 心理療法を行うには、まず心理アセスメントを通して対象者に合った媒体や手法を吟味することが大変重要である。そして適切な心理アセスメントを行うには、それらの知識を深めると同時に、セラピスト自身の自己理解を忘れてはならない。本講では、演習・発表を通して、セラピストとして重要な自己理解(分析)を深めることにもとりくんでいく。			
[授業概要] Ⅱaに引き続き、心理療法の実際を学びながら、対象者理解及び自己理解のための演習なども行う。疾患や障害についての知識を深め、その援助方法や様々な心理療法について、各自の発表も取り入れながら考究していく。音楽療法等の実践現場への参加体験も行っていく予定である。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。また、心理臨床実習を体験しながら、毎回のケース記録や分析を行っておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。			
[授業計画] 1. 心理臨床の実際と現状 2. 疾患・障害の理解 1 3. その援助と心理療法 1 4. 疾患・障害の理解 2 5. その援助・心理療法 2 6. 疾患・障害の理解 3 7. その援助・心理療法 3 8. 疾患・障害の理解 4 9. その援助・心理療法 4 10. 自己理解演習 1 11. 自己理解演習 2 12. 自己理解演習 3 13. 実践ケース検討 1 14. 実践ケース検討 2 15. まとめ			
[成績評価方法] 授業中の課題(20%)、討議(30%)、レポート提出(50%)等を総合的に判断して評価する。 ・授業中の課題、レポート課題は授業内に適宜フィードバックをする。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし。授業時に必要に応じて資料を配布する。			
[参考書(ISBN)] なし。授業時に随時紹介する。			

科目名	臨床心理学特論 I a	前期	2 単位
サブタイトル	児童心理臨床		
担当者	前田 研史		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 発達に重篤な問題を示している子どもに対する臨床心理援助のあり方を検討し、子どもの生活全体を通して支援するという視点を習得することを目標とする。			
[授業概要] 情緒発達に重篤な問題を示す子どもたちに対する臨床心理援助のあり方を検討する。このような子どもたちに対する心理的援助のあり方についての検討は、まだ決して十分なものではない。そこでは、心理療法空間だけでなく、子どもの生活全体を通して支援するという視点が求められる。本講では、一方で、たとえば児童養護施設に入所している被虐待児への臨床心理援助のあり方などをとり上げ、またもう一方では、アタッチメント形成とその障がいについて詳しく検討し、その両者の知見を統合させながら心理的援助のあり方について検討していく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 新聞やテレビなどで報道される児童虐待などの情報に日ごろから関心を持ち、授業内容と関連づけて考えるように努めること。			
[授業計画] 1. 児童心理臨床の基本1 2. 児童心理臨床の基本2 3. 心理療法と心理的援助 4. 児童福祉施設における子どもたち 5. アタッチメント形成とその障がい1 6. アタッチメント形成とその障がい2 7. アタッチメントの障がいと心理的援助1 8. アタッチメントの障がいと心理的援助2 9. 情緒的問題を示す子どもへの心理的援助1 10. 情緒的問題を示す子どもへの心理的援助2 11. 発達的問題を示す子どもへの心理的援助1 12. 発達的問題を示す子どもへの心理的援助2 13. 発達的問題を示す子どもへの心理的援助3 14. 発達的問題を示す子どもへの心理的援助4 15. まとめ			
[成績評価方法] レポートによる。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 授業時に資料を配布する。			
[参考書(ISBN)] 必要に応じて紹介する。			

科目名	臨床心理学特論 I b	後期	2 単位
サブタイトル	遊戯療法の理論と技法		
担当者	前田 研史		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 本講では、発達途上にある子どもに心理療法(遊戯療法)を実施する際の理論と技法について、詳しくみていく。とくに遊戯療法のプロセスを、力動的な立場から検討することで、子どもへの臨床心理学的援助の実際についての理解を深める。			
[授業概要] 遊戯療法においても、大人を対象とした心理療法と同様に、セラピスト-子ども(クライアント)関係を軸としながら、子どもの内的世界が象徴的に表現され、また、転移・逆転移現象が展開する。その実際を、具体的な事例などをとり上げながら明らかにしていく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学部で学んできた発達理論および心理療法理論をあらためて整理し、毎回授業でとりあげられるテーマと照合して理解を深めるよう努める。			
[授業計画] 1. 心理療法における遊戯療法の位置づけ 2. 遊戯療法の理論;クライアント中心療法の立場 3. 遊戯療法の理論;力動論的アプローチ1 4. 遊戯療法の理論;力動論的アプローチ2 5. 遊戯療法における子どもの表現 6. 遊戯療法における転移-逆転移 7. 遊戯療法の実際;生育歴・家族歴の読み取り1 8. 遊戯療法の実際;生育歴・家族歴の読み取り2 9. 遊戯療法の実際;プロセスの理解1 10. 遊戯療法の実際;プロセスの理解2 11. 遊戯療法の実際;プロセスの理解3 12. 家族への臨床心理援助1 13. 家族への臨床心理援助2 14. 関係機関(学校)との連携 15. 関係機関(福祉機関・病院)との連携			
[成績評価方法] レポートによる			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] 授業時に紹介する。			

科目名	臨床心理学特論Ⅱa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	小原 依子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 人間の成長を生涯発達の視点から捉え、その中で思春期・青年期以降のライフサイクルと各ステージでの課題及びその危機や発達病理について、臨床心理学的知識を深めることを目標とする。			
[授業概要] 思春期・青年期における課題や、それ以降のライフサイクルと各ステージでの危機や問題を、様々な角度から考究する。同時に発症しやすい疾患や障害についての臨床心理学的理解と対応を検討する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。生涯発達心理学の観点にたち、日頃の社会的事象について関心をもつこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。			
[授業計画] 1. 発達課題について 2. 思春期の発達課題と危機 3. その問題と対応 4. 青年期の発達課題と危機 5. その問題と対応 6. 成人期の発達課題と危機 7. その問題と対応 8. 中年期の発達課題と危機 9. その問題と対応 10. 高齢期の発達課題と危機 11. その問題と対応 12. 様々な疾患・障害 1 13. 様々な疾患・障害 2 14. 様々な疾患・障害 3 15. まとめ			
[成績評価方法] 授業中の課題(20%)、討議(30%)、レポート課題(50%)等を総合的に判断して評価する。 ・授業中の課題、レポート課題は授業内に適宜フィードバックをする。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし。授業時に必要に応じて配布する。			
[参考書(ISBN)] ライフサイクルの臨床心理学 著者名:馬場禮子・永井 徹 共編 出版社:培風館 (4-563-05610-3)			

科目名	臨床心理学特論Ⅱb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	小原 依子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] Ⅱaに引き続き、特に思春期・青年期の心身の特性や好発病理についての臨床心理学的理解と、そのメンタルヘルス及び臨床心理学的アプローチの検討を行うことを目標とする。			
[授業概要] Ⅱaに引き続き、生涯発達の視点から、思春期・青年期以降に見られる疾患や障害についての理解を深めるとともに、特に昨今遷延化している青年期の様々な問題を中心にとりあげ、教育現場や医療現場でのメンタルヘルスのあり方や臨床心理学的アプローチについて学ぶ。また、心身保健学的考察を深めるために随時、受講者の発表やケース報告もとりにいれていく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。心理臨床学的対応について、事例研究の文献を読み解き、自身の臨床実習ケース記録や分析の検討もしておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。			
[授業計画] 1. 生涯発達について 2. 思春期の心身の特性と心理臨床(1) 3. 思春期の心身の特性と心理臨床(2) 4. 青年期の心身の特性と心理臨床(1) 5. 青年期の心身の特性と心理臨床(2) 6. 起こりうる心身の問題① 不登校・ひきこもり 7. 起こりうる心身の問題② アバシー 8. 起こりうる心身の問題③ 摂食障害 9. 起こりうる心身の問題④ 神経症・心身症 10. 起こりうる心身の問題⑤ 自己破壊行為 等 11. メンタルヘルスのあり方 12. ケース検討 1 13. ケース検討 2 14. ケース検討 3 15. まとめ			
[成績評価方法] 授業中の課題(20%)、討議(30%)、レポート課題(50%)等を総合的に判断して評価する。 ・授業中の課題、レポート課題は授業内に適宜フィードバックをする。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし。授業内で随時資料を配布する。			
[参考書(ISBN)] ライフサイクルの臨床心理学 著者名:馬場禮子・永井 徹 共編 出版社:培風館 (4-563-05610-3)			

科目名	論文指導演習a(教育学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	三宅 茂夫、小原 依子		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 学位論文の作成			
[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、実験・調査を中心とした研究指導を行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集、実験および調査、事例検討を行い、目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。各回、予習復習合わせて2時間以上。			
[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。			
[成績評価方法] 総合評価による。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし。授業内で随時配布する。			
[参考書(ISBN)] なし。授業内で随時紹介する。			

科目名	論文指導演習a(教育学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	中島 實		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。各回、予習復習合わせて2時間程度 [授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。 [成績評価方法] 論文作成に必要な課題への取り組み、成果による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし 著者名:× 出版社:× (×) [参考書(ISBN)] なし 著者名:x 出版社:x (×)			

科目名	論文指導演習a(教育学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	中村 隆文		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 学位論文の作成			
[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。			
[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。			
[成績評価方法] 総合評価による。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習a(教育学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	堀江 祐爾		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 国語科教育に関する論文の作成に関する基礎的なことがらについて知見を深めることをめざす。自分の授業実践や理論について、自分の言葉によって論文にまとめることができるようになって欲しい。			
[授業概要] 自分自身の国語科に関する修士論文の「テーマ」「先行研究」「基礎理論」についてのレポートをおこない、それをもとに討議を展開する。さらに「目次案」を作成し、「下書き」を書き始めるところまでもっていく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 毎回の授業内容を復習して理解を確かなものにするとともに、しっかりとしたレポートを用意すること。各回、予習復習合わせて2時間程度。			
[授業計画] 1. オリエンテーション 興味・関心調査 2. 論文の「テーマ」についてのレポートと討議(1) 3. 論文の「テーマ」についてのレポートと討議(2) 4. 論文の「テーマ」についてのレポートと討議(3) 5. 「先行研究」についてのレポートと討議(1) 6. 「先行研究」についてのレポートと討議(2) 7. 「先行研究」についてのレポートと討議(3) 8. 「基礎理論」についてのレポートと討議(1) 9. 「基礎理論」についてのレポートと討議(2) 10. 「基礎理論」についてのレポートと討議(3) 11. 「目次案」についてのレポートと討議(1) 12. 「目次案」についてのレポートと討議(2) 13. 「下書き」についてのレポートと討議(1) 14. 「下書き」についてのレポートと討議(2) 15. まとめ この講義において身につけた力の振り返り ※授業の展開の都合により順序や内容が変わることがある。			
[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)課題・レポートについては印刷配布、またはmanabaやインターネットなどを通してフィードバックする。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習a(教育学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	前田 研史		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 学位論文の作成			
[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。			
[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。			
[成績評価方法] 総合評価による。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] 必要に応じて紹介する。			

科目名	論文指導演習a(教育学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	三宅 茂夫		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。 [成績評価方法] 研究の成果(80%)、発表(20%)を総合して行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] 後日連絡する。 [参考書(ISBN)] 必要に応じて、文献の紹介や資料の配付を行う。			

科目名	論文指導演習b(教育学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	小原 依子		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、実験・調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集、実験および調査、事例検討を行い、目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。 [授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。 [成績評価方法] 総合評価による。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし。必要に応じて資料を配布する。(なし。) [参考書(ISBN)] なし。授業時に随時紹介する。(なし。)			

科目名	論文指導演習b(教育学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	中島 實		
[実務経験のある教員による授業] [到達目標] 学位論文の作成 [授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。 [準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。各回、予習復習合わせて2時間程度 [授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。 [成績評価方法] 完成論文および試問による。 フィードバックは成績問合せに対応して行う。 [オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。 [教科書(ISBN)] なし 著者名:x 出版社:x (×) [参考書(ISBN)] なし 著者名:x 出版社:x (×)			

科目名	論文指導演習b(教育学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	中村 隆文		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 学位論文の作成			
[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。			
[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。			
[成績評価方法] 総合評価による。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習b(教育学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	堀江 祐爾		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 国語科教育に関する論文の作成に関する応用的なことがらについて知見を深めることをめざす。自分の授業実践や理論について、自分の言葉によって論文にまとめることができるようになって欲しい。			
[授業概要] 自分自身の国語科に関する修士論文の下書きについて、「テーマ」の記述、「先行研究」の押さえ、「基礎理論」の記述についてのレポートを行い、それをもとに検討を展開する。さらに、「注記などの面から」確認し、「批判的な点検」まで行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 毎回の授業内容を復習して理解を確かなものにするとともに、しっかりとしたレポートを用意すること。各回、予習復習合わせて2時間程度。			
[授業計画] 1. オリエンテーション 興味・関心調査 2. 論文の下書きについてのレポートと検討―「テーマ」の記述について―(1) 3. 論文の下書きについてのレポートと検討―「テーマ」の記述について―(2) 4. 論文の下書きについてのレポートと検討―「テーマ」の記述について―(3) 5. 論文の下書きについてのレポートと検討―「先行研究」の押さえについて―(1)「 6. 論文の下書きについてのレポートと検討―「先行研究」の押さえについて―(2) 7. 論文の下書きについてのレポートと検討―「先行研究」の押さえについて―(3) 8. 論文の下書きについてのレポートと検討―「基礎理論」の記述について―(1) 9. 論文の下書きについてのレポートと検討―「基礎理論」の記述について―(2) 10. 論文の下書きについてのレポートと検討―「基礎理論」の記述について―(3) 11. 論文の下書きについてのレポートと検討―注記などの面から―(1) 12. 論文の下書きについてのレポートと検討―注記などの面から―(2) 13. 論文の下書きについてのレポートと検討―批判的な点検―(1) 14. 論文の下書きについてのレポートと検討―批判的な点検―(2) 15. まとめ この講義において身につけた力の振り返り ※受講生の状況などに合わせて柔軟に展開していく。			
[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)課題・レポートについては印刷配布、またはmanabaやインターネットなどを通してフィードバックする。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] なし			

科目名	論文指導演習b(教育学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	前田 研史		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 学位論文の作成			
[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。			
[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。			
[成績評価方法] 総合評価による。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] なし			
[参考書(ISBN)] 随時紹介する。			

科目名	論文指導演習b(教育学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	三宅 茂夫		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 学位論文の作成			
[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。			
[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、15回の授業計画を立てる。			
[成績評価方法] 研究の成果(80%)、発表(20%)を総合して行う。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 後日連絡する。			
[参考書(ISBN)] 必要に応じて、文献の紹介や資料の配付を行う。			